

平成 21 年度
横須賀美術館 評価報告書
(試行版)

平成 23 年 (2011 年) 2 月
横須賀美術館評価委員会

目次

1	はじめに	1
2	検討の経緯	2
3	平成 21 年度 横須賀美術館の評価について	5

本編

事務局による一次評価

①美術を通じた交流の促進	8
②質の高い展覧会の開催	17
③やすらぎの場の提供	29
④知的好奇心の育成と充足	41
⑤福祉活動の展開	53
⑥学校との連携	60
⑦市民との協働	67
⑧子どもたちへの美術館教育	74
⑨すぐれた美術品の収集・保管	77
⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理	84

評価委員会による二次評価

①美術を通じた交流の促進	90
②質の高い展覧会の開催	94
③やすらぎの場の提供	98
④知的好奇心の育成と充足	102
⑤福祉活動の展開	105
⑥学校との連携	107
⑦市民との協働	109
⑧子どもたちへの美術館教育	110
⑨すぐれた美術品の収集・保管	111
⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理	113

1 はじめに

美術館の評価は、地方の幾つかの美術館からはじまり、現在では国立の美術館においても実施されています。評価の目的は、美術館によって異なりますが、その活動内容を市民に正しく周知される手立てとして、また、課題や改善点をみずからが認識し対策を講じていくための手法として、必要なものになっております。

横須賀美術館が行う評価の目的は、横須賀美術館評価委員会設置要綱第1条の「美術館活動の適正性と改善点を提示すること」に基づいたものです。その規定の主旨は、美術館が行うさまざまな活動を美術館自体が自己点検し、課題や反省点に対策を講じ、その改善策を次の活動に活かし、美術館のよりよい運営を行うためのツールとして機能させることにあります。そこで、わたしたち評価委員会の役割は、美術館側の自己点検による一次評価を市民の目線で再チェックし、一次評価の確認を通してよりよい美術館の運営と活動につなげることにあります。

横須賀美術館での評価委員会は開館直前の平成19年3月に発足しました。この種の委員会は、一定期間の運営や活動の状況を把握しながら、必要性に応じて組織化をはかれることが本来の姿なのかも知れません。しかし、横須賀美術館では、スタッフが一人になって開館準備段階から「市民のための美術館」として機能するよう取り組んでおりましたので、その運営と活動を適正に評価する委員会を早期に組織化しました。そうしたスタッフの意気込みによる評価委員会の設立はそれなりの意義を有するものと思います。それだけに委員会のメンバーは責任の重さを実感し、委員会発足から約3年、その間7回の会議を重ねて、美術館側から提出された自己点検評価資料を慎重に検討してきました。そうした経緯を通してひとつの形を示すことができました。それが平成21年度評価報告書です。

平成21年度評価報告書は、この間検討を重ねてきた評価の仕組みに基づき、実際の運営と活動の結果を評価という形態で検証した事項を、評価基準項目別にまとめたものです。ここに平成21年度の評価結果を報告します。

今後につきましては、平成21年の評価報告書を作成するにあたって検討してきましたシステムに基づき評価を継続するとともに、必要に応じて評価システムそのものをチェックしていきたいと思っています。評価委員会による本評価が、今後の美術館の発展と、市民をはじめ美術館利用者の一層のニーズに応える指針の提供につながることを願っております。

平成23年2月

横須賀美術館評価委員会
委員長 小林 照 夫

2 検討の経緯

(1) 平成 18 年度 第 1 回 会議

日時：平成 19 年 3 月 6 日 午後 3 時～5 時

会場：美術館会議室

次第：1 開会

2 生涯学習部長あいさつ

3 委員の自己紹介

4 委員長指名

5 議事

(1) 事務局より趣旨・配布資料説明

(2) 評価項目案の検討

(3) その他

6 事務連絡

(2) 平成 19 年度 第 1 回 会議

日時：平成 19 年 7 月 6 日 午後 2 時～4 時

場所：美術館会議室

次第：1 横須賀美術館館長及び事務局（教育委員会）職員の紹介

2 議 事

(1) 横須賀美術館の基本理念・活動方針について

(2) 平成 19 年度の目標について

(3) 評価項目・評価指標について

(4) その他

①美術館開館後の状況について（報告）

②来館者アンケートの集計結果（速報）について（報告）

3 その他事項

(1) 次回開催予定について

(2) 中間での資料提供及びご意見等の聴取について

(3) 平成 19 年度 第 2 回 会議

日時：平成 20 年 3 月 7 日 午後 2 時

場所：美術館会議室

次第：1 あいさつ

2 報 告

(1) 第 2 回委員会以降の経過

(2) 配布式アンケートの分析結果について

3 議 事

(1) 評価制度の確立・実施に向けたスケジュールについて

4 その他

(4) 平成 20 年度 第 1 回 会議

日時：平成 21 年 2 月 23 日 午後 2 時

場所：美術館ワークショップ室

次第：1 あいさつ

2 報 告

評価委員会委員改選等について

3 議 事

横須賀美術館 評価制度（案）について

・目標・評価項目・評価指標について

4 その他

(5) 平成 21 年度 第 1 回 会議

日時：平成 21 年 6 月 25 日

場所：美術館会議室

次第：1 あいさつ

2 委員委嘱

3 委員自己紹介

4 委員長選任

5 議事

(1) 横須賀美術館 評価制度について

(2) 平成 21 年度の会議日程について

(3) 会議の公開について

6 その他

(6) 平成 21 年度 第 2 回 会議

日時：平成 21 年 10 月 20 日 午後 3 時～5 時

場所：美術館ワークショップ室

次第：1 あいさつ

2 議 事

平成 21 年度の活動報告及び一次評価（仮）について

3 その他

(7) 平成 21 年度 第 3 回 会議

日時：平成 22 年 3 月 9 日 午後 3 時～5 時

場所：美術館会議室

次第：1 あいさつ

2 議 事

(1) 平成 21 年度の一次評価（試行案）及び二次評価について

① 評価確定までのスケジュール（案）

- ② 一次評価（試行案）について
- ③ 二次評価の実施方法について
- 3 その他

3 平成 21 年度 横須賀美術館の評価について

(1) 評価の目的

横須賀美術館の評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は 1 年間の活動をまとめ、自らの評価を行い評価委員会に報告します。評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、改善点や活動の提言を行い、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的としています。

次頁に掲載した表のとおり評価全体の流れは PDCA サイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画 (P: Plan) し、実行 (D: Do) していき、その内容を評価 (C: Check) し、これを改善 (A: Action) につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

(2) 評価項目

評価項目は、横須賀美術館の現在の活動をほぼ網羅する内容構成を考え、下記の 10 項目に大別しこれを①から⑩であらわしています。

また小項目として、各大項目の中で必要に応じて最大 a～f までの 6 項目に区分しています。

- ①美術を通じた交流の促進
- ②質の高い展覧会の開催
- ③やすらぎの場の提供
- ④知的好奇心の育成と充足
- ⑤福祉活動の展開
- ⑥学校との連携
- ⑦市民との協働
- ⑧子どもたちへの美術館教育
- ⑨すぐれた美術品の収集・保管
- ⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理

(3) 評価指標

評価はわかりやすくするため、ABC の 3 段階評価としています。

各評価項目における評価指標 (目標) に向け活動した結果、目標に到達したかを ABC の 3 段階で示します。3 段階の区分は、及第点を B 評価とし、これを大きく超えたもの、またこれに到達しなかったものをそれぞれ A 評価、C 評価としています。

A: 指標より高いレベルに達している

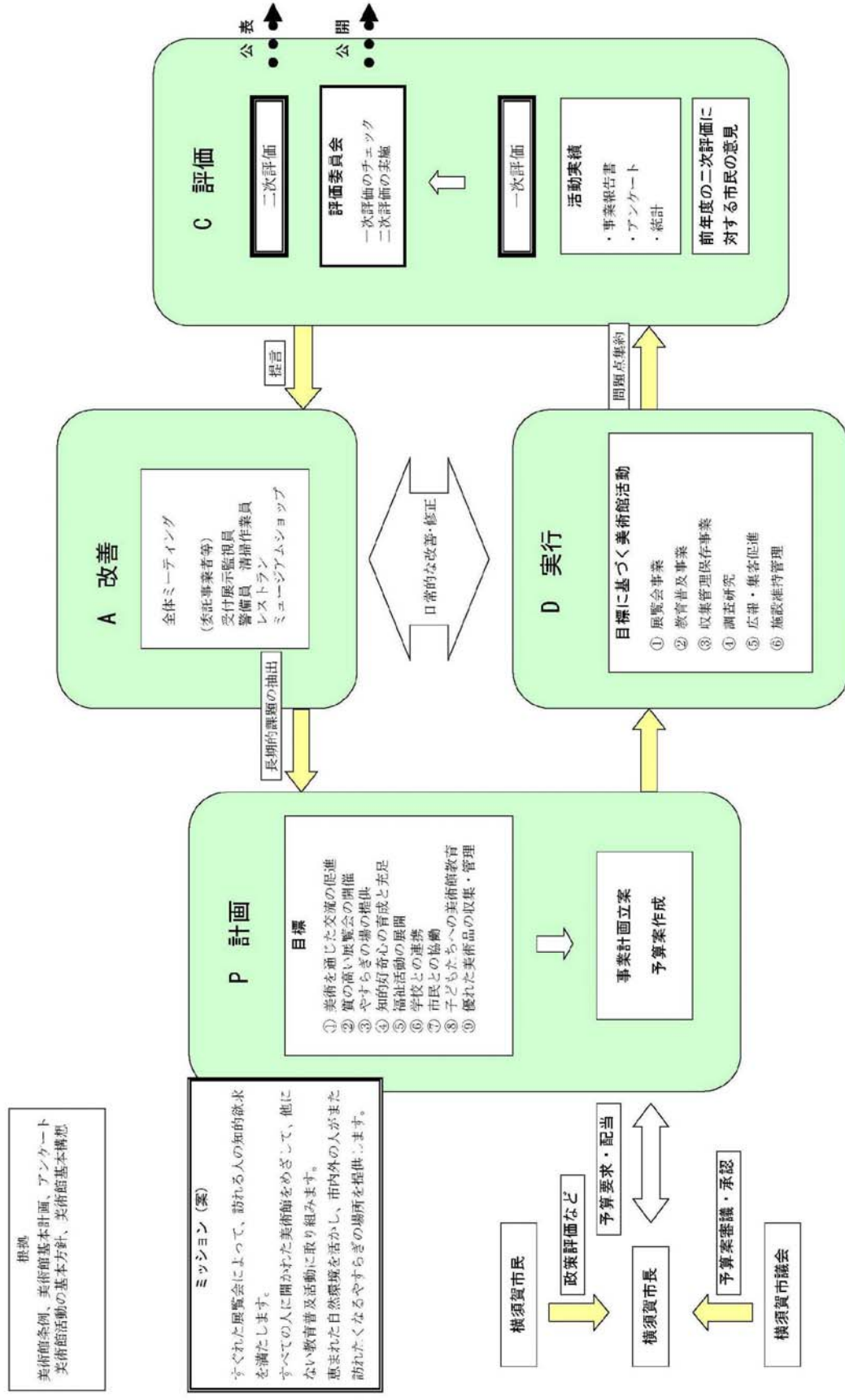
B: 指標を満たしている

C: 指標を満たしていない

評価指標は、主に来館者アンケート結果をもとにしたものと、美術館自身の活動を振り返り継続した実績をもとにしたものを用いています。前者の多くは数値化できるため定量的評価となりますが、後者は数値化しにくいものから定性的評価としています。

平成 21 年度の評価は、評価システム自体を確立させるための試行段階として行ったものになります。よりよい美術館活動を目指すため、評価項目、評価指標とも今後も常に見直しを行い、実態に即した評価をしていくことを常に心がけ進めていくものです。

横須賀美術館評価システムの全体像



事務局による一次評価

①美術を通じた交流の促進

a.年間観覧者数

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	98,738 人	106,520 人	165,961 人
評価	C	B	A

【評価指標】10 万人以上

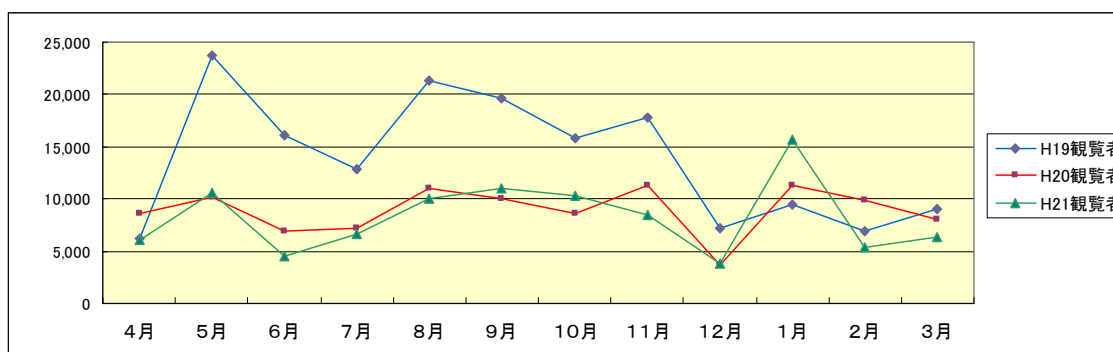
年間観覧者数を 10 万人としているのは、「横須賀市立美術館 基本計画」（平成 12 年 6 月策定）で見込まれている目標値である。他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、都市の人口から予測した。

開館以降九三年の実績は、この目標を達成できるポテンシャルを持っていることを実際に証明している。すぐれた周辺環境（景観）と建築、人口密集地から 2 時間以内という地の利、企画展・コレクションの質の高さが大きな要因であると考えられる。

【21 年度の状況】

目標をわずかながら達成できなかった。

月別に観覧者数の推移を見ると、4 月、6 月、11 月、2 月、3 月が前年と比べて下回っている。4 月、6 月については、企画展の開催日数が前年より少なかった。11 月以降については、新型インフルエンザの流行によって、一般的に外出を控える傾向があったことなどが原因と考えられる。1 月が前年比で伸びているのは、「児童生徒造形作品展」の会期を長くしたため。



【21 年度の取り組み】

- ・京浜急行線駅貼り・窓上ポスター掲示
 - 「駅貼り」は天空橋・羽田空港を除く全駅に B2 サイズ各 2 枚（200 枚）×2 週間
 - 「窓上」は車両内窓上（800 枚）×一ヶ月間

- ・ポスター・チラシ配布（企画展ごとに 805 件（うち市立施設 53、市立学校 77）に発送）
- ・パブリシティ活動（別項）
- ・ホームページによる周知
- ・市広報媒体（広報よこすか・広報掲示板）による周知
- ・旅行会社・近隣の宿泊施設への訴求
（21 年度から）
- ・新聞広告（クレー展）
 - 8 月 26 日朝日新聞夕刊・水曜アート面半 5 段
 - 9 月 15 日読売新聞夕刊・シティライフ面 4 段 1/5 （いずれも東京本社版）
- ・カレーフェスティバルとのタイアップ（5 月 9 日、10 日の 2 日間、観覧料を半額とした）
- ・谷内六郎館ポスター作成
 - B2 ポスターを作製・配布（9 月）
 - 京急線窓上に掲出（22 年 3 月 3 日～31 日）

【22 年度以降の課題】

当初目標である 10 万人を達成するため、次のような取り組みをする。

- ・各企画展の 3 ヶ月前に広報会議を行う。ここで具体的な広報戦略をたて、組織的に実施する。
- ・宣伝物の送付先を増やす。企画展のターゲットに応じた訴求をする。
- ・新聞広告を活用する。（年 2 回分を予算化）
- ・京浜急行線駅貼りの見直し
 - ポスターのサイズを B2 からより訴求力の強い B1 に変更し、主要駅 30 駅に各 2 枚（60 枚）掲出する。

b.年間来館者数

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	224,729 人	246,337 人	386,175 人
評価	C	B	A

【評価指標】23 万人以上

年間来館者数は、美術館本館の出入口に設置されたオートカウンターによって、入ってきた人数を計測した数。展覧会を目的としない来館者を含めた、美術館を中心とする賑わいを示す指数と考えられる。

「来館者数／観覧者数」の比は、およそ 2.3 であり、過去 3 年間一定していることから、観覧者数の指標×2.3 を来館者数の指標とする。

- ・オートカウンターは出入りの識別が可能であり、集計した数には出て行った人数は含まれていない。
- ・オートカウンターは正面入口、ペントハウス、谷内館入口に設置しているが、「来館者数」には谷内館入口の計測数を含まない。（谷内館に入るには、必ず本館受付に行かなくてはならないため、これを加えるとダブルカウントとなってしまう。）
- ・上記のことから、レストランのみの利用者は含まれない。
- ・同じ人が何度も出入りすると、重複してカウントされる。

c.市民率

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	36.9% *	39.6% *	22.8% **
評価	B	A	C

* 補正值

** 「清宮質文展」「若林奮展」の調査結果による。

【評価指標】40%に近づける

来館者アンケートより算出。

横須賀美術館の性格として、地域住民のための社会教育施設という側面と、交流を促進するための観光施設という側面の両面があり、どちらに偏っても望ましくない。

今後市民の間に美術鑑賞の習慣が浸透していくことを考慮して、現状よりやや高い 40% に指標を設定した。

- ・市民率は、企画展の性格によって大きく左右されると考えられる。
- ・ところが各企画展の会期中に回収するアンケートの数は一定ではないため、年間の市民率は、各企画展の観覧者数の比を考慮に入れて補正した値とした。

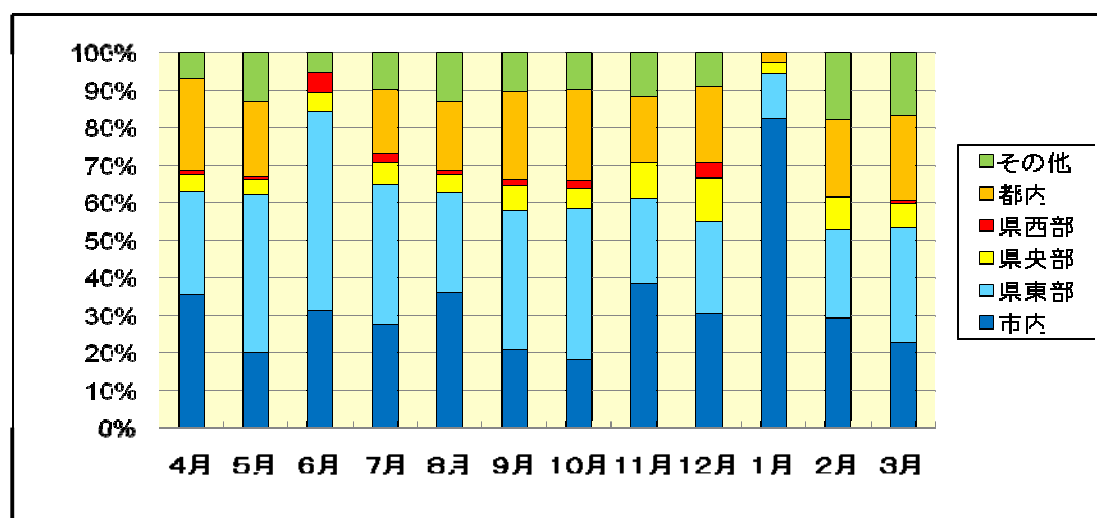
【21 年度の状況】

来館者アンケートの結果、大部分が市外在住であり、市民は相対的に少ない。

通常の企画展開催中の市民率は、20%～30%台で推移している。

「児童生徒造形作品展」（20 年度より開催）では、84.9%となった。

(来館者居住地の月別推移)



(企画展ごとの市民率)

21 年度事業	会期	観覧者数	市民率	推定市民数 (市民率×観覧者数)
花	4/11-5/31	15,069 人	27.2%	4,106 人
コドモノクニ	6/27-8/23	16,061 人	32.7%	5,245 人
クレー	9/5-10/18	18,340 人	19.3%	3,544 人
白髪一雄	10/31-12/27	12,381 人	34.3%	4,249 人
児童生徒造形作品展	1/17-2/3	15,401 人	84.9%	13,080 人
ワンダーシニア 30	2/13-4/11	12,579 人*	23.0%	2,898 人
全体 (企画展開催中**)		89,831 人	(36.9%)	33,122 人

* 3/31 までの観覧者数。最終的には 15,069 人となった。

** 所蔵品展のみ開催している期間については、サンプル不足のため市民率の算出不能。

【21 年度の取り組み】

・市内向け広報

市広報媒体の活用→広報よこすか、広報掲示板

まなびかんニュース (横須賀市生涯学習財団発行・月刊)

市内公共施設・学校・商店会等へのポスター・チラシ送付

・児童生徒造形作品展の開催

・所蔵品展内で「特集：飯塚鈴児の童話さし絵」を実施。(第 4 期)

←横須賀市出身で、市民に人気の高い飯塚鈴児 (1904-2004) の作品を紹介。

【22 年度以降の課題】

市民の利用をよりいっそう拡大させる。

ただし、向上を目指すべきなのは市民率ではなく、市民の実数 (推定市民数) であることには注意しなくてはならない。(たとえば、「児童生徒造形作品展」のように、主に市民を対象とした事業を増やせば、市民率は上昇するが、現状では大多数が市外からの観覧者であるため、全体の観覧者数は減少すると考えられる。)

市民に美術鑑賞の機会を提供し、美術振興をはかるため、今後も質の高い展覧会事業を展開していくとともに、市民に密着した教育普及活動や、市民協働を進めたい。

そのうえで、市内向けの広報活動をきめ細かくし、市民への訴求を高めていきたい。

d.パブリシティの状況

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【評価指標】

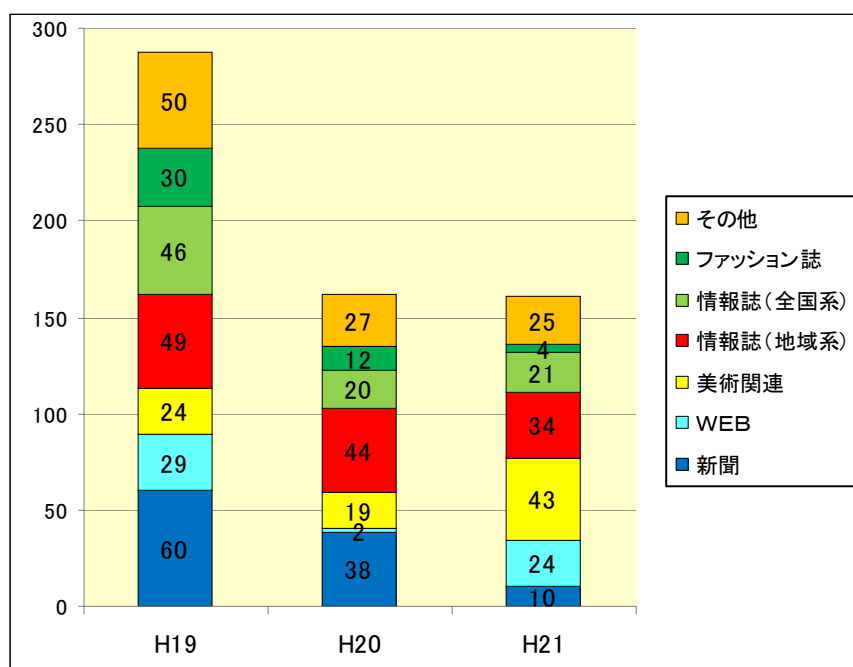
館イメージ・企画展ごとの内容・ターゲットとなる顧客に応じた、戦略的な訴求活動が行われている。

【21 年度の状況】

開館から 3 年が経過し、「新しい美術館」というニュース性が薄らいでいるなか、マスメディアに採りあげられた件数は 161 件と、前年度（162 件）からほぼ横ばいである。

媒体別に見ると、「新聞」「情報誌（地域系）」「ファッション誌」が減少傾向にあり、「美術関連」が増加している。

（パブリシティ件数の推移）



【21 年度の取り組み】

- ・企画展開催の 1 ヶ月前を目途として、各情報媒体（262 件）に向けてプレスリリースを送付する。
- ・テレビ・専門月刊誌については、3 ヶ月前を目途として資料送付のうえ訴求活動をする。
- ・ワークショップなどの教育普及事業、所蔵品展の特集等では、特に地域メディアへの訴求を強化する。

- ・ 展覧会の内容と関連する領域（ボタニカルアート、園芸、植物園関係、神奈川近代文学館、近隣市の図書館など）への訴求（花展）
- ・ 文学やボタニカルアートなど展覧会テーマと近接する内容の講演会を行い、潜在的な観客層にアプローチした。（花展）
- ・ 開催中の訴求（コドモノクニ展以降）
- ・ 「コドモノクニ」に関係する出版社（アシェット婦人画報社、婦人之友社等）との連携（コドモノクニ展）
- ・ 新聞社の担当者に直接アプローチした結果、展評を4紙に掲載してもらった。（白髪一雄展）

【22年度以降の課題】

予算が限られているなかで、費用をかけずに事業内容を効果的に周知し、来館行動につなげてゆくためには、パブリシティ活動が重要な鍵となる。

特に企画展については、効果の大きいテレビ、全国紙を主なターゲットとして、訴求活動を組織的、計画的に行っていく。

また、企画展だけではなく、教育普及活動や、所蔵品展のなかでも、話題性のあるトピックを見つけて、きめ細かな訴求活動を行っていく。

その他、美術情報サイトや、ブログなど、インターネット上のメディアについて戦略を立てることも今後の課題といえる。

e.アクセス満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	83.7%	未調査	未調査
評価	B	—	—

【評価指標】80%以上

本書でいう「満足度」とは、5段階評価で「5 と思う」「4（どちらかといえば思う）」と答えた人／回答者（サンプル全体ではない）の割合。

「アクセス満足度」は、来館者アンケート中の設問「美術館まで迷うことなくスムーズに来られた」に対する満足度で示す。

【21年度の状況】

立地条件から、当初からアクセスについて懸念されていたが、21 年度よりアンケート項目に加えたところ、満足度としては予想よりも低い数値とはならなかった。来館者の半分超が自家用車を利用するなかで、横浜横須賀道路の馬堀海岸インターチェンジが 20 年度末に開設され、車でのアクセスが向上したことが反映していると考えられる。

自家用車利用者と比較すると、公共交通機関利用者の満足度は 4.6 ポイント低かった。馬堀海岸、浦賀両駅の利用者に限れば、さらに低い値を示している。（より不満が多いと予想される JR 横須賀駅、横須賀中央駅利用者は比較的値が高い。これらはサンプル数が少ないために、誤差の範囲内とも考えられる。）原因としては、バス停の位置のわかりにくさ、バスの便の少なさ、運行時刻の不確実さ、などが予想される。

居住地別に見ると、市外からの来館者より、市内に在住している人の不満がやや多い。

（交通手段別アクセス満足度）

全体		(1521)	83.7%	
公共交通機関 (587)	馬堀海岸駅からバス・タクシー	(293)	80.3%	81.3%
	浦賀駅からバス・タクシー	(117)	79.3%	
	JR 横須賀駅からバス・タクシー	(102)	83.7%	
	横須賀中央駅からバス・タクシー	(46)	86.4%	
	路線バスのみ	(29)	84.6%	
自家用車		(854)	85.9%	

（居住地域別アクセス満足度）

全体	(1551)	83.7%
横須賀市内	(463)	81.5%
横須賀市含む神奈川県内	(1077)	84.1%

市外 (1088)	横須賀市除く神奈川県内	(614)	85.8%	84.5%
	県東部	(503)	87.6%	
	東京都	(309)	84.8%	
	その他の地域	(165)	79.0%	

【21 年度の取り組み】

- ・馬堀海岸・浦賀・JR 横須賀駅への案内板設置（開館時より）
- ・案内標識の設置
→開館時に 5 ヶ所（大津交差点（2）、浦賀駅前、観音崎大橋南、観音崎レストハウス前）設置、20 年度末横浜横須賀道路全線開通にあわせて馬堀海岸 IC 前に設置。計 6 ヶ所
- ・カーナビ・地図などへの掲載依頼

【22 年度以降の課題】

特に公共交通機関について、利便性を向上させる。

広報活動のなかで、交通案内をよりわかりやすくしてゆく。（チラシ用案内地図の改訂など）

馬堀海岸・浦賀・JR 横須賀駅にはすでに案内板を設置しているが、アンケート等から、これらに気づかない人もいることがわかっている。設置場所や記載内容が適切であるかどうか、今後検討していきたい。

②質の高い展覧会の開催

a. 企画展集客率(企画展目的の来館者／サンプル数)

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	59.8%*	52.2%*	43.2%
評価	C	C	C

*補正值

【評価指標】60%以上

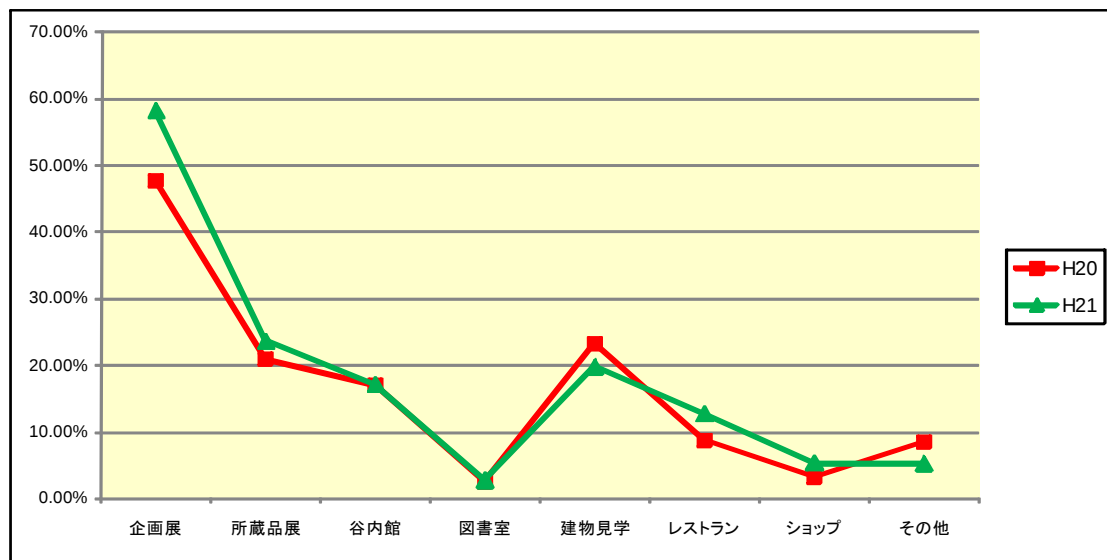
横須賀美術館の主たる事業である企画展が、来館の目的となる魅力的なものであることを示す指標。

来館者アンケート「ご来館のおもな目的はなんですか？」の回答のうち、「企画展」と答えた人の割合で表す。複数回答可であるため、分母はアンケートの回収数（サンプル数）となる。（無回答を含む）

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 60%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

（来館目的の推移）



*19 年度は未調査

来館した目的として、開催中の企画展を挙げる人が群を抜いて多く、回答者の半数を超えている。開館当初には、施設そのものや建築見学を目的とした来館者も多かったが、その傾向はしだいに薄れており、企画展の内容が観覧者数を左右する状況となっているといえる。

企画展別に見ると、特に知名度の高いパウル・クレー展（73.9%）がもっとも高い数値を示した。逆に、「コドモノクニ」展（48.1%）白髪一雄展（47.7%）は50%をやや下回った。季節的な特性として、企画展を目的としない来館者が多い時期があり、そのため数値が相対的に抑えられたと考えられる。

（企画展ごとの目的率）

21 年度企画展	観覧者数	企画展目的率	推定される集客数 (目的率×観覧者数)
花	15,069 人	59.4%	8,957 人
コドモノクニ	16,061 人	48.1%	7,718 人
クレー	18,340 人	73.9%	13,559 人
白髪一雄	12,381 人	47.7%	5,911 人
児童生徒造形作品展	15,401 人	66.3%	10,208 人
ワンダーシニア 30	12,579 人*	58.4%	7,351 人
全体（企画展開催中）	89,831 人	(59.8%)	53,703 人

*3/31 までの観覧者数。最終的には 15069 人となった。

（参考）

20 年度企画展	観覧者数	企画展目的率	推定される集客数 (目的率×観覧者数)
中村岳陵	14,644 人	44.9%	6,574 人
あそびじゅつくる	14,056 人	24.2%	3,398 人
ファイニンガー	23,148 人	55.5%	12,840 人
日本彫刻の近代	15,328 人	74.4%	8,201 人
児童生徒造形作品展	14,601 人	60.5%	14,601 人
芥川沙織	9,548 人	52.2%	9,548 人
全体（企画展開催中）	91,325 人	(59.8%)	47,646 人

【21 年度の取り組み】

- ・「花」というポピュラーなテーマによって、日本の近現代美術への親しみと、横須賀美術館への好感度を増してもらうことを目的とした。また、京都画壇の日本画や工芸など、当館の所蔵品ではカバーしにくいジャンルおよび傾向の作品を、できるだけ多く紹介し、単独自主企画展としてのインパクトを強めることを企図した。対象としては、ごくオーソドックスな中高年の美術ファンを想定した。（花展）
- ・会期が夏休みと重なるため、親子連れや子どもを主な観覧者として想定し、親しみやすい展覧会となるよう努めた。（コドモノクニ展）
- ・重要な作家の展覧会であるが、一般の人にとって、特に関東では知名度が高いとはいえない。そこで、新聞の展評欄に掲載してもらうべく、主要な新聞社の担当者に DM 発送及び直接メールと電話で連絡をとった。結果として、4 紙に掲載することができた。（白

髪一雄展)

- ・知名度の高い海外作家の展覧会であるため、市内のみならず、県内、都内からの来館者を期待。初めて新聞広告を掲載した。(クレー展)
- ・画壇を牽引してきたベテラン洋画家の仕事に注目し、この 50 年間の洋画の成果を概観しつつ、出品作家と同年代にあたる美術館の主要な観客層に対しては、出品作品への共感を通して、展覧会に親しみを感じてもらうことを意図した。(ワンダーシニア 30)

【22 年度以降の課題】

来館の動機となるような、質の高い企画展を年 6 回開催する。

展覧会の内容によって、訴えかける層は異なっている。より多くの方に来館してもらうために、6 本のラインアップのなかで、できるだけ幅広い興味に対応していきたい。

(具体的には、「海外の作家を紹介する展覧会」「子ども・家族で楽しめる展覧会」「横須賀・三浦半島ゆかりの作家を紹介する展覧会」など)

b. 企画展の満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	73.2%*	76.0%*	70.5%**
評価	B	B	B

* 補正値

** 「清宮質文展」「若林奮展」の調査結果による。

【評価指標】70%以上

企画展について、「全体的にみて、満足できる展覧会だった」と思うか、という設問に対しての満足度を、「企画展満足度」とし、展覧会の質の高さを示す指標であるとする。

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 70%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

20 年度は各企画展がそれぞれほぼ 70%以上の満足度を維持して、好結果となった。21 年度については展覧会によってばらつきが見られるものの、全体としては 70%を超えている。

(企画展ごとの満足度)

21 年度企画展	観覧者数	企画展満足度	推定される「満足」人数 (満足度×観覧者数)
花	15,069 人	78.1%	11,774 人
コドモノクニ	16,061 人	76.4%	12,265 人
クレー	18,340 人	63.3%	11,617 人
白髪一雄	12,381 人	61.0%	7,558 人
児童生徒造形作品展	15,401 人	88.3%	13,601 人
ワンダーシニア 30	12,579 人*	70.9%	8,921 人
全体 (企画展開催中)	89,831 人	(73.2%)	65,735 人

* 3/31 までの観覧者数。最終的には 15,069 人となった。

(参考)

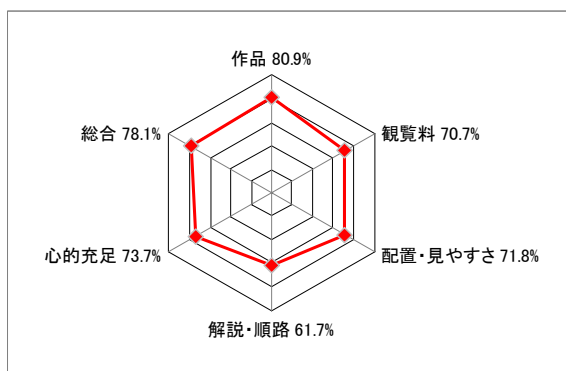
20 年度企画展	観覧者数	企画展満足度	推定される「満足」人数 (満足度×観覧者数)
中村岳陵	14,644 人	77.8%	11,390 人
あそびじゅつくる	14,056 人	68.3 %	9,594 人
ファイニンガー	23,148 人	79.6%	18,418 人
日本彫刻の近代	15,328 人	71.2%	10,909 人
児童生徒造形作品展	14,601 人	85.3%	12,456 人

芥川沙織	9,548 人	70.0%	6,679 人
全体（企画展開催中）	91,325 人	(76.0%)	69,446 人

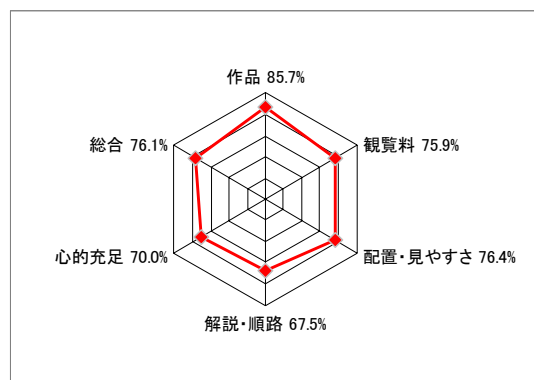
（満足の要素の傾向：ダイアグラム）

	作品	観覧料	配置・ 見やすさ	解説・ 順路	心的充足	総合
花	80.9%	70.7%	71.8%	61.7%	73.7%	78.1%
コドモノクニ	85.7%	75.9%	76.4%	67.5%	70.0%	76.1%
クレー	67.7%	66.9%	58.4%	45.2%	53.9%	63.3%
白髪一雄	63.8%	62.9%	74.9%	60.8%	43.5%	61.0%
児童生徒造形作品展	93.3%	79.0%	79.8%	76.7%	83.0%	87.0%
ワンダーシニア 30	76.0%	73.1%	72.7%	67.2%	64.1%	70.9%

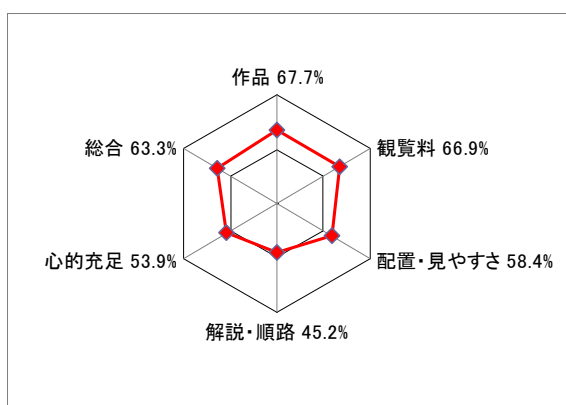
花展



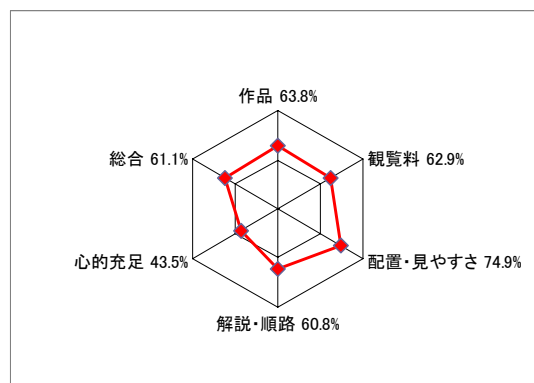
コドモノクニ展



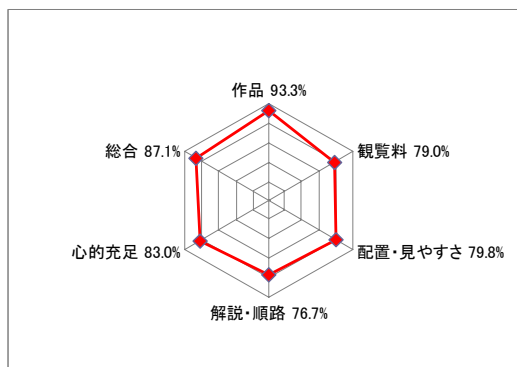
クレー展



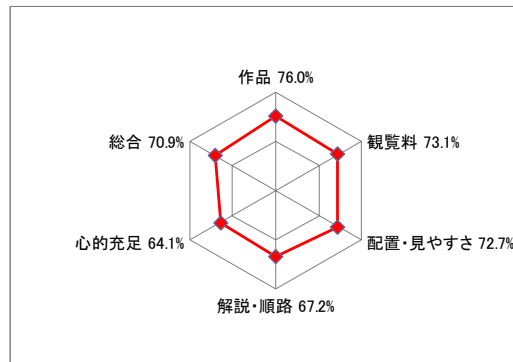
白髪一雄展



児童生徒造形作品展



ワンダーシニア 30 展



【21 年度の取り組み】

- 作品数が多かったため、キャプションを小さめに作成した。その小ささも不評だったが、作者名や作品名に読み仮名がないということで、お客様にストレスをかけたようだ（アンケートで指摘あり）。日本画の場合は雅号や画題の読みが難しく、また、工芸については、慣習化している読み方が、一般のお客様にはわかりにくいなどの問題があったようだ。（花展）
- 展示室 2 の導線がやや複雑になってしまった（花展）
- 作品保護のため照度を絞ったが、展示室が暗くて見にくいとの指摘があった。紙モノの展覧会では必ず指摘される点ではあるが、解決策を見つけるのは難しいかと思われる。（コドモノクニ展）
- 絵雑誌の展示にハイケースを多用し、2 段組みで展示したが、書見台等を用いなかったため、展示が見えにくい部分があった。奥の展示には書見台を用いるなど、より気を配った展示を心がけるべきだった。（コドモノクニ展）
- 会期が 11 日から 18 日に延長し、土日が 2 日間増加したことにより、昨年度よりも混雑が緩和された。（児童生徒造形作品展）

【22 年度以降の課題】

観覧者から見て、ストレスとなる要素を取り除いてゆく工夫を引き続き行う。

- わかりやすい展示：作品を鑑賞するヒントとなる、簡単な内容の解説パネルを適切な数設置する。また、作品自体の配置や動線設計によって作品を整理して提示する。
- 見やすい展示：適切な配置、照明によって作品の魅力を最大限に引き出す。作品保全のために、照明を暗くしなければならない場合には、その旨をお断りする掲示を出す。

c. 所蔵品展の満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	59.1%	60.1%	65.8%
評価	C	B	B

【評価指標】60%以上

所蔵品展について、「全体的にみて、満足できる展覧会だった」と思うか、という設問に対しての満足度を、「所蔵品展満足度」とし、展覧会の質の高さを示す指標であるとする。

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 60%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

おおむね 60%前後で推移している。

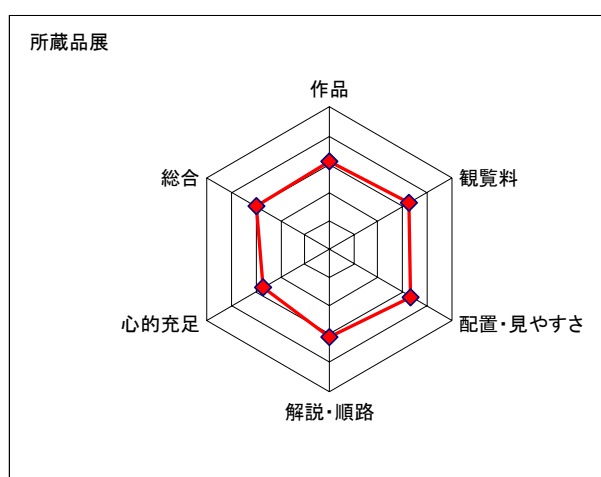
(会期ごとの推移)

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
所蔵品展満足度	61.9%	58.6%	57.5%	58.0%
(回答数)	370	529	395	257

項目別に見ると、「心がやすらいだ。または、元気が出た」に対する回答（心の満足度）がやや低い。

(項目別満足度)

項目	満足度
作品	61.7%
観覧料	64.3%
配置・見やすさ	66.8%
解説・順路	61.3%
心的充足	52.9%
総合	59.1%



【21 年度の取り組み】

- ・ 主要な所蔵作品について、解説カードを作成し配布している。

- ・テーマや作家別の小特集を設けて、展示内容にメリハリを出すようつとめた。
- ・新しい試みとして、借用作品を加えた特集展示（特集：滝波重人）を行った。（第2期）
- ・順路の最初となる階段をおりてすぐの壁に、「所蔵品展」「特集」などの切り文字案内を設置。（第3期～）
- ・全体に照度をあげた。油彩画の画面で 200Lx 程度、また、画面へのスポットだけではなく反対側の壁面にも照明を当て、反射によるやわらかな光で、吹き抜け空間上部の暗さが解消できるよう試みた。（第3期）
- ・遮光のため「展示室8」入口にトンネル状の仮設壁を設置した（これにより、8室入口付近でも照度 50 lx 以下を実現できた）。（第3・4期）

【22年度以降の課題】

観覧者から見て、ストレスとなる要素を取り除いてゆく工夫を引き続き行う。

- ・わかりやすい展示：作品を鑑賞するヒントとなる、簡単な内容の解説パネルを適切な数設置する。また、作品自体の配置や動線設計によって作品を整理して提示する。
- ・見やすい展示：適切な配置、照明によって作品の魅力を最大限に引き出す。作品保全のために、照明を暗くしなければならない場合には、その旨をお断りする掲示を出す。
- ・くたびれない工夫：所蔵品展示室の動線は長く、初めての観覧者にとっては先の予測がつかないため、ペース配分がしにくい。作品の数を適切な範囲にとどめる、休憩場所を確保するなど、快適にご覧いただくための工夫が必要。

d. 谷内六郎展の満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	75.0%	77.3%	86.9%
評価	B	B	A

【評価指標】70%以上

谷内六郎展について、「全体的にみて、満足できる展覧会だった」と思うか、という設問に対しての満足度を、「谷内六郎展満足度」とし、展覧会の質の高さを示す指標であると考ええる。

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 70%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

(会期ごとの推移)

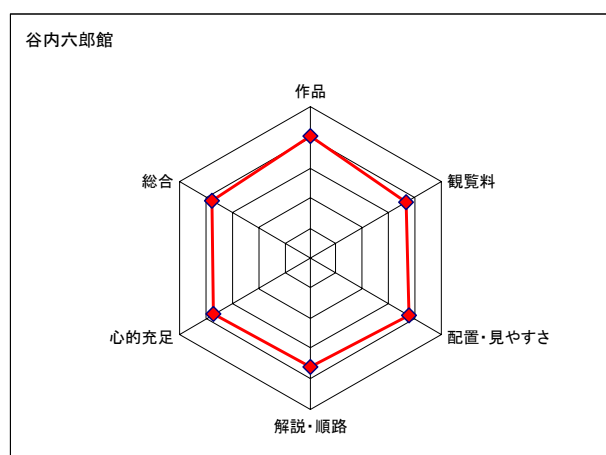
	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
谷内展満足度	78.6%	79.3%	65.6%	72.2%
(回答数)	131	208	131	126

非常に高い満足度を記録した初年度に比べるとやや低落傾向にあるとはいえ、開館 3 年目を迎える現在でも比較的高い数値を示している。年齢を問わず受け入れやすい作品の性格が、高い満足度につながっていると考えられる。

項目別に見ると、「展示している作品は良かった」（作品について）が最も高く、「解説や順路はわかりやすかった」（解説・順路）が比較的低値である。（中庭を通る「展示室 2」の場所がわかりにくいためであると考えられる。）

(項目別満足度)

項目	満足度
作品	80.7%
観覧料	72.7%
配置・見やすさ	74.5%
解説・順路	71.7%
心的充足	74.1%
総合	74.3%



【21 年度の取り組み】

- ・谷内自身による解説「表紙の言葉」パネルをすべての出品作品の横に掲出。（開館当初より一部実施。20 年度よりすべての作品について実施。）
- ・アドバイザー谷内氏によるあいさつパネルを掲出。谷内六郎と観音崎との関わりや、作家自身について、遺族の谷内六郎館への思いなどが自然なかたちで書かれ、担当者が書くあいさつ文よりも温かみがあり好評であった。（第 1 期）

【22 年度以降の課題】

著作権者でもあるご遺族との関係が悪化している。谷内六郎に関する情報提供、関連資料の貸与など、従来されていたような協力が得られにくくなっているが、そのなかで、魅力ある展示を継続し、期待に応えてゆかなくてはならない。

e. リピート率(複数回来館者／回答者)

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	34.2%	27.5%	20.5%
評価	C	C	C

【評価指標】40%以上

リピート率は、アンケート「ご来館は何回目ですか？」に対する回答者のうち、2 回目以上と答えた人の比率であらわす。実際に来館した人が、美術館に好印象をもっていただいたことの証拠であるとともに、再び足を運ぶに足る、魅力的な事業が展開されているかどうかを示す指標である。

時間の経過とともに増えていくと予想されるが、20 年度、21 年度の実績を踏まえ、当面の目標として 40%を設定した。

【21 年度の状況】

開館以来ほぼ一定の伸び率で増加している。

リピーターのうちの半数以上（55.1%）は市民であり、来館した市民のおよそ 3 分の 2（63.7%）は、2 回以上来館している。

逆に、初めて来館する人のほとんど（83.5%）は、市外からの来館者である。

（リピーターの居住地域）

	市内	県東部	市内含む県内	東京都	その他
2 回以上(523)	55.1%	25.0%	83.6%	11.1%	5.4%
初めて (994)	16.5%	36.7%	62.3%	24.4%	13.3%
全体 (1549)	29.9%	5.7%	32.4%	19.9%	10.6%

（リピーターの来館目的）

	企画展	所蔵品展	谷内六郎展	図書室	建物見学	レストラン	ショップ	その他
2 回以上(546)	76.6%	28.0%	20.3%	5.1%	9.2%	10.8%	5.3%	6.8%
初めて(1052)	58.5%	25.5%	18.3%	2.1%	28.8%	16.0%	6.3%	5.1%
全体 (1798)	58.0%	23.6%	17.2%	2.8%	19.8%	12.7%	5.4%	5.3%

リピーターが来館する目的としては、「企画展」が突出して多く（76.6%）、全体との比較では、「所蔵品展」「谷内六郎館」「図書室」も多い傾向がある。

初めて来館した人の目的は、全体とほぼ同ような傾向だが、「建物見学」と「レストラン」が比較的多い。

【21 年度の取り組み】

開館年度から、年間パスポート*を発行し、複数回の来館を勧めている。

発券数は、19 年度に比べ減少しているが、20 年度と 21 年度はほぼ同数である。

	21 年度	20 年度	19 年度
パスポート発券数	381	385	498

*有効期限内であれば、企画展、所蔵品展を何度でも無料で観覧できる。

同伴者は何人でも 2 割引で観覧できる。

来館するごとに捺されるスタンプが 5 個、10 個たまると展覧会図録などのプレゼントがもらえる。

料金：購入時点から有効期限（年度末）までの企画展観覧料合計額の半額。

【22 年度以降の課題】

リピーターの増加は、観覧者数の安定を目指すうえで、必須の要素であると考えられる。

リピーターの来館目的である、企画展をはじめとする事業の充実につとめたい。

③やすらぎの場の提供

a. 館内アメニティ満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	88.7%	未調査	未調査
評価	B	—	—

【評価指標】80%以上

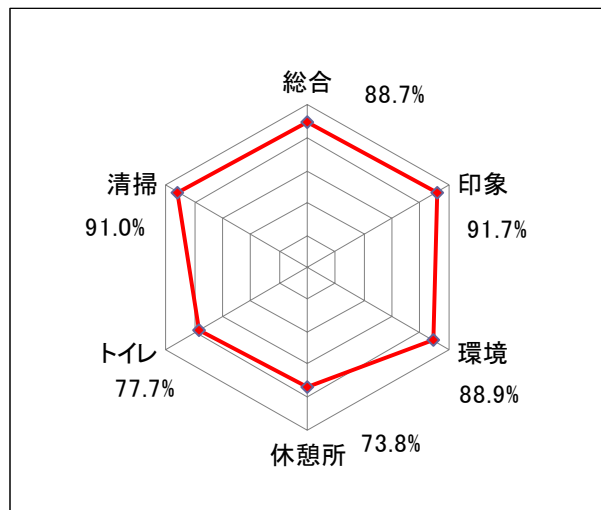
来館者が、気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標。21 年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）とした。

21 年度の調査結果を踏まえ、達成可能な目標として、80%を評価指標とする。

【21 年度の状況】

（快適性）

館内は明るく開放的で、よい印象を受けた	印象	91.7%
館内は静かで落ち着ける環境である。	環境	88.9%
休憩する場所がじゅうぶん用意されている。	休憩所	73.8%
トイレ・授乳室は利用しやすい。	トイレ	77.7%
清掃が行き届いており、清潔感がある。	清掃	91.0%
全体的に見て、館内では気持ちよく過ごすことができた。	総合	88.7%



満足度はかなり高い。建物自体が持つさわやかで清潔な印象に加えて、清掃が行き届いている点が評価されている。逆に、休憩所（イスが少ない、飲食できる場所がない、など）やトイレ（狭い、使いにくい、場所がわかりにくい、など）などについては不満を感じている人の割合が比較的高い。

【21 年度の取り組み】

(維持管理の状況)

主な維持管理業務		業務内容・回数等	
清掃	日常清掃	来館者スペース (床、トイレ、ロッカー、外構全般等)	7 時～閉館時間
	定期清掃	フローリング	年 4 回
		内外ガラス、屋根	年 3 回
		塗装外壁、庇、硬質床清掃	年 2 回
		内壁除塵、外部床、カーペット、ブラインド清掃	年 1 回
植栽管理	芝生	人力除草	年 3 回
		刈込	年 7 回
		施肥	年 1 回
	地比類	人力除草	年 2 回
		灌水	年 3 回
	樹木	剪定	年 1 回
エレベーター保守点検			年 12 回
自動ドア保守点検			年 4 回
その他 空調機や消防設備、熱源設備、 情報システム等の保守点検			年 1 ～12 回

- ・館内サイン（案内表示）の見直し（20 年度）
- ・休憩所確保の取り組み
 - 休憩用のイス（キューブ型）を増設（20 年度）
 - GW・夏季に屋外休憩所（テント）を設置（20 年度）
- ・日常の清掃について、人員が必ずしもじゅうぶんではない（開館前 4 名・日中 1 名）ので、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心がけている。

【22 年度以降の課題】

休憩所、特に飲食可能な場所の確保については、ハードにかかわることであり、長期的な課題として認識している。

b. スタッフ対応の満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	79.0%	69.6%	78.9%
評価	C	C	C

【評価指標】80%以上

来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度。

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 80%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者とじかに接しているため、クレームの対象となりやすい。対応が悪いとのクレームは開館当初から多く見られ、数値上 2 年目には悪化するという状況であった。請負業者の自助努力や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、21 年度現在は満足度の数値も一定以上の水準に達してきている。

【21 年度の取り組み】

- ・運営事業者連絡会議の開催（21 年度）
→レストラン、ショップ、受付、展示監視、広報・総務・学芸の各担当が集まり、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案をする。
- ・展示監視日報を導入（21 年度）
→展示監視事業者に対して、来館者からのクレームの内容、対応等を記録、報告することを義務付け。情報共有、対応方法の指示をきめ細かに、リアルタイムで行うため。
- ・受付・展示監視研修を実施（21 年度）
→開館年度からの受託事業者主催による研修に加え、美術館スタッフによる研修を実施。

【22 年度以降の課題】

今年度（22 年度）、受付・展示監視事業者の選定を実施するため、現行事業者の契約期間は 9 月末までとなっている。事業者が交代した場合も、緊密な連携を保てる体勢づくりを進めている。

c. ミュージアムショップの満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	58.6%	85.4%	未調査
評価	C	A	—

【評価指標】 70%以上

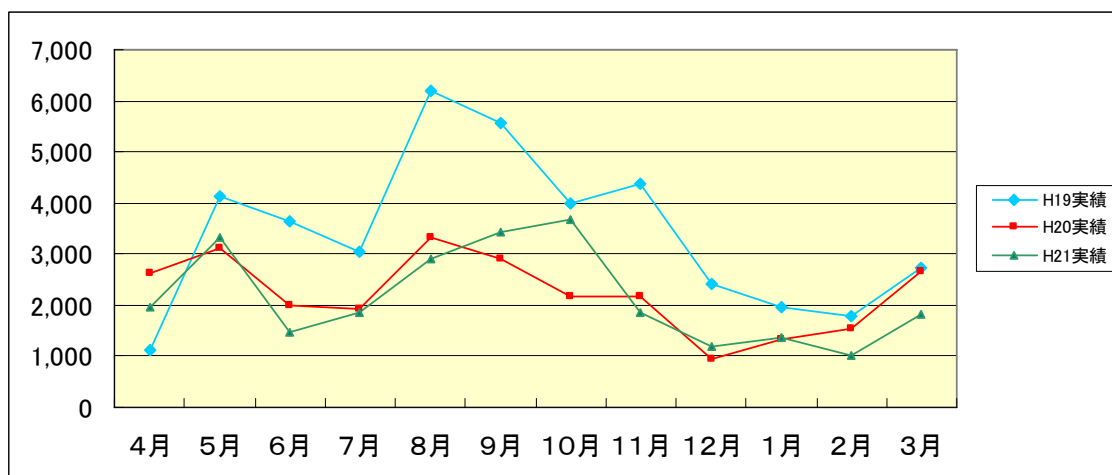
20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 70%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

アンケートに見られる来館者の意見はさまざまであり、同じことに対してもまったく反対の感想が出ることもある（品ぞろえが良い、悪いと双方の意見があるなど）。

企画展関連のグッズの充実、特にオリジナルポストカードへの要望が高い。

（月別利用者の推移）



【21 年度の取り組み】

- ・ゴールデンウィーク中に「貝すくい」（貝を入れるビンを販売し、詰め放題にする）コーナーを設け、家族連れなどに好評を得た。（21 年度）
- ・焼き菓子、飴、インスタントスープなど保存のきく食品の取り扱いをはじめた（21 年度）。
- ・ワンダーシニア 30 展では、全ての作品のポストカードを作成し、販売した。
- ・11 月から 4 月下旬にかけての平日、谷内六郎館内のショップを閉鎖することとした。冬季の来館者数が減少傾向にあり、事業を継続するための苦肉の策として、事業者の要望を受け入れた措置であった。（閉鎖の間、谷内関連商品は本館内ショップで取り扱った）

【22 年度以降の課題】

顧客の要望は多様であり、品ぞろえについては限られた面積のなかで柔軟に対応してい

く必要がある。

接客をより向上させる。

より多種のオリジナルグッズを開発して要望に応えたい。

d. レストランの満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	64.1%	67.6%	未調査
評価	C	C	—

【評価指標】 70%以上

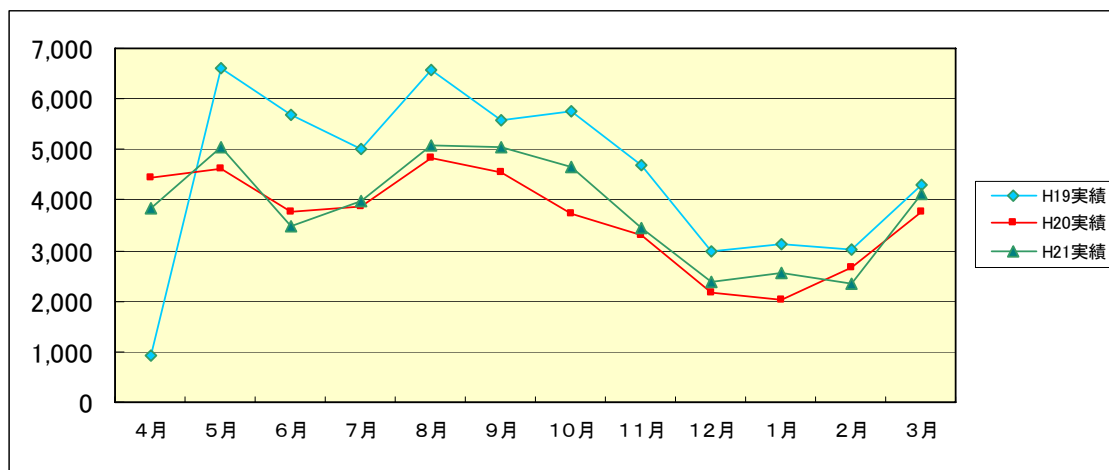
20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 70%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

地元三浦産の食材を活かして、本格的なイタリア料理を提供する「アクアマーレ」が営業を行っている。

アンケート結果に見られる特徴は、満足と不満の差がはげしいこと。満足の理由としては、質の高い食事のほかに景色がよいことが挙げられている。不満の理由には価格設定が高い、接客がよくない、といったもののほか、混雑時に長時間待たされる、入れない、など利用したくてもできないケースが目立っている。開館当初と比べてかなり減ったものの、休日のランチタイムには混雑するケースがある。

(月別利用者の推移)



20 年度に比べ、21 年度は増加する傾向にある。

【21 年度の取り組み】

- ・企画展ごとに「コラボメニュー」を考案して提供した。(コドモノクニ展から)
- ・価格を見直した。(低廉化)
- ・混雑時の顧客のストレスを軽減するため、土日祝日については事前予約をとらず、先着順に対応することにした。(21 年度)
- ・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に

食事を提供できるようにした。(20 年度から)

- ・レストランウェディングを検討 (21 年度)

【22 年度以降の課題】

利用者への案内方法を改善したため、「空いている席があるのに入れない」といった苦情はほとんど聞かれなくなった。席数はハードの問題であり、拡大することは困難であるため、今後も事業者とよく連携し、接客の工夫によって、利用者のストレス軽減に努めてゆく。

e. 図書室の満足度

【1次評価】

	21 年度	20 年度	19 年度
実績	66.3%	68.6%	未調査
評価	C	C	—

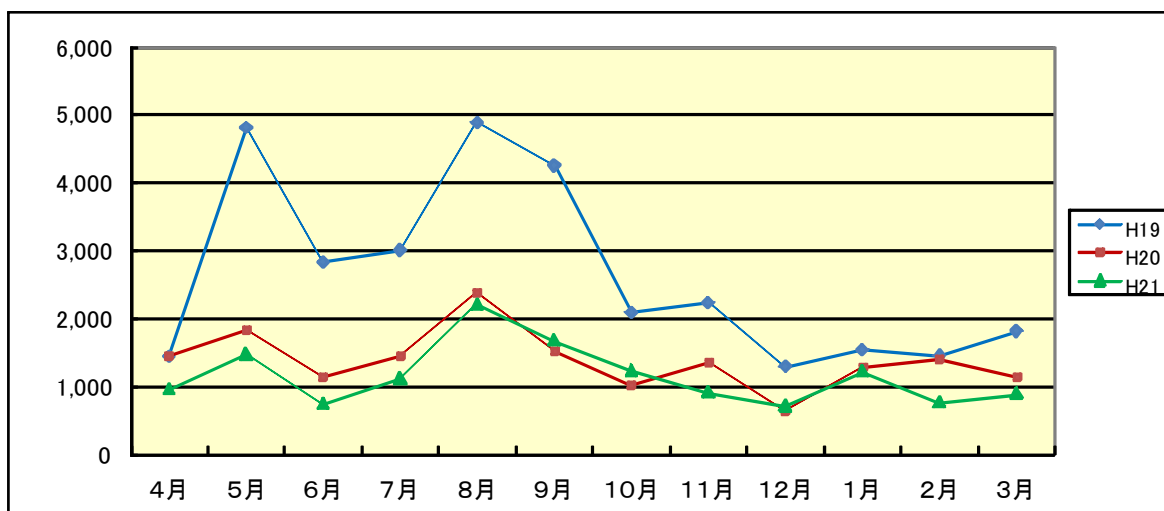
【評価指標】 70%以上

20 年度、21 年度の調査結果をもとに、達成可能な数値を 70%と推定し、指標とした。

【21 年度の状況】

美術史家・故匠秀夫氏の蔵書を軸に、新しい美術館としては充実した美術図書資料を有しており、開館中を通じて来館者の利用に供している。

(利用者数の推移)



来館者・観覧者の推移と同じような傾向を示し、全体としては微減している。

【21 年度の取り組み】

- ・戦前の美術雑誌など貴重資料の修復、保全処置（研修等に参加して技術的向上を図り、継続的に進めている）
- ・大口寄贈書の登録作業
- ・雑誌資料の目録作成（みづゑ、アトリエ他 27 誌）
- ・企画展関連書籍の紹介
図書室入口近くに、「企画展関連書コーナー」を設けて、企画展について理解を深めたい利用者の便宜をはかっている。また、「企画展関連書籍の紹介」パンフレットを作成し、館内で配布している。
- ・児童書コーナーの充実
絵本など児童向けの本を特集した書架の近くにソファ席を設け、親子連れが読み聞かせ

などに利用しやすくした。

【22 年度以降の課題】

利用者の絶対数が少ない。一般の利用を促すような工夫が今後の課題といえる。

- ・よりわかりやすい配置の検討。

- ・誘導サインの再検討

場所がわかりにくいという声が多いため。そのほかにも、館内で図書室の存在をアピールする方法を検討する。

- ・一般利用のほか、展示などにも資料を活用する。

- ・児童書コーナーの充実

絵本のディスプレイ方法など、より親しみやすくするための工夫を続けてゆく。

- ・蔵書検索機能の web 公開

f. 周辺諸施設との連携

【1次評価】

	21 年度
評価	C

【評価指標】

- ・ 観音崎観光の拠点施設としての役割を果たしている。
- ・ 周辺諸施設との連携がとられている。
- ・ 周辺環境も含め、一日中楽しむことのできる「滞在型の美術館」となっている。

【21年度の状況】

来館者が、美術館とあわせてどのような行動をとっているのか把握するために、21 年度よりアンケート項目に「外出目的」を問う設問を追加した。

これによれば、来館者の半数以上は美術館のみ（1）を目的としている。美術館がおもな目的だが、他にも目的がある（2）、と答えた人は回答者のおよそ 3 分の 1、美術館は主な目的ではない（3）、と答えた人は 1 割程度であった。

美術館以外の目的について、自由記述を整理すると、「観音崎」「海」などが多いことがわかる。また、行動としては「食事」「散歩」「買い物」などがある。ごく少数であるが、観音崎地域からやや離れた「三崎」「猿島」「横須賀中央」という地名を挙げる人もいた。

来館者の観音崎公園での滞在時間平均は、およそ 2 時間半であり、展覧会以外に公園を利用するとしても、多くはごく短時間にとどまっていると推測される。

20 年度に比べて、21 年度は駐車場の利用が伸びている。また、利用台数に比べ、利用料金の伸びのほうが大きいと、1 台あたりの利用時間は延びる傾向にあると考えられる。

（外出の目的）

回答数	1.美術館のみ	2.他にも目的がある	3.主な目的ではない
1513	54.7%	35.5%	9.8%

（美術館以外の目的地）

観音崎	98	観音崎公園	33
		観音崎灯台	25
		観音崎自然博物館	6
海	66	海岸	6
		海水浴	3
食事	63	アクアマーレ	27
		観音崎京急ホテル	7
散歩	44	散歩	22
		散策	15

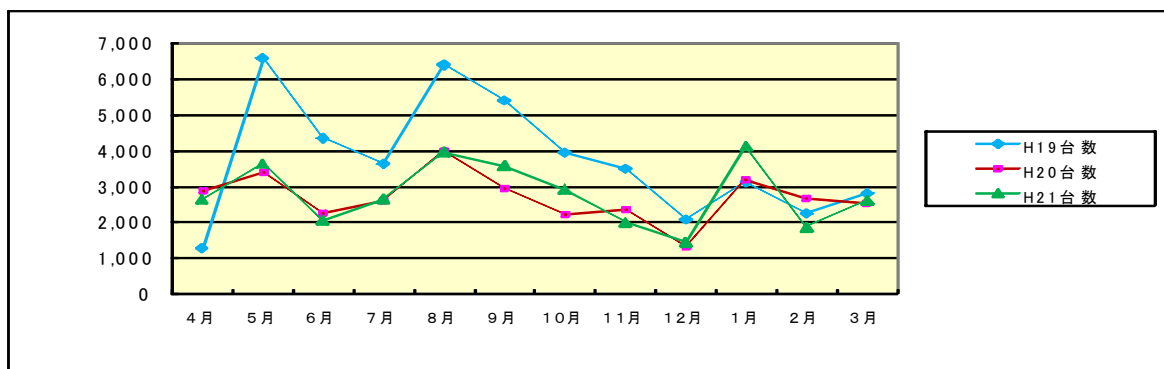
		ウォーキング	3
観音崎京急ホテル	33	SPASSO（温泉施設）	14
		食事	7
		宿泊	3
		結婚式	1
買い物	19	ショッパーズプラザ（汐入）	3
		ホームズ（平成町）	2
		横須賀中央	1
		平成町	1
その他		ドライブ	17
		観光	16
		猿島	9
		景色	9
		三崎	9
		走水神社	7
		横浜	6

※併記されているものはそれぞれカウントし、複数のカテゴリにカウントしたものもある。

（観音崎公園への滞在時間）

	21 年度	20 年度	19 年度
平均	2.58 時間*	2.64 時間*	未調査

（駐車場利用状況の推移）



	19 年度	20 年度	21 年度
年間利用台数	45,424 台	32,338 台	33,484 台
対前年比	—	71.19%	103.54%
駐車料金合計	13,289,100 円	9,990,950 円	11,762,350 円
対前年比	—	75.18%	117.73%

【21 年度の取り組み】

- ・「観音崎公園あんない」パンフレットの作成・配布（開館年度より）
- ・「観音崎公園あんない」地図の掲示
- ・観音崎公園連絡協議会への参加（毎月）
- ・観音崎京急ホテル（SPASSO）・観音崎自然博物館との提携（相互優待）
- ・各種スタンプラリーの誘致・実施
 - 「京急花めぐり」集客促進実行委員会（6 月）
 - 「黒船ウォーク」久里浜・浦賀・大津観光協会（4～6 月）
- ・ウォーキングイベントの誘致・開催
 - 「京急沿線ウォーク」集客促進実行委員会
 - 「10000m プロムナードウォーク」横須賀体育協会（3 月）
- ・「観音崎フェスタ」観音崎フェスタ実行委員会（毎年 11 月 3 日）
- ・「横須賀美術館 おたのしみマップ」作成
 - 横須賀美術館の建物と周辺の魅力を、手描きの親しみやすいイラストマップで紹介。

【22 年度以降の課題】

- ・県土木事務所「観音崎公園再生プロジェクト」との連携
- ・観音崎航路（(株)トライアングル）との相互優待を予定
- ・「マップ」続編の制作（「ウォーキングマップ 美術館まで歩いちゃおう」・「観音崎公園」（仮））
- ・団体でお弁当を食べられる場所の確保
- ・休憩所機能の強化

④知的好奇心の育成と充足

【評価指標】

- ・収蔵作品を中心とした専門的な調査研究や美術館活動に関する研究を行い、その成果を積極的に来館者に還元している。
- ・美術作品との出会い、美術作品を通したひとびとのコミュニケーションを促している。

a.企画展・所蔵品展・谷内六郎展の開催

【1次評価】

	21年度
評価	B

【21年度の状況】

企画展	花－美と生命のイメージ	単独自主企画展	4月11日～5月31日
	手のひらのモダン―「コドモノクニ」と童画家たち	単独自主企画展	6月27日～8月23日
	パウル・クレー 東洋への夢	巡回展・千葉市美術館、静岡県立美術館と共催	9月5日～10月18日
	白髪一雄展 格闘から生まれた絵画	巡回展・尼崎市総合文化センター他と共催	10月31日～12月27日
	児童生徒造形作品展	横須賀市造形教育研究会と共催	1月17日～2月3日
	ワンダーシニア 30 展	単独自主企画展	2月13日～4月11日
所蔵品展	〔第1期〕特集：嶋田しづ／朝井閑右衛門と物語の主人公たち／小特集：中西利雄		4月18日～7月5日
	〔第2期〕特集展示：滝波重人		7月11日～9月27日
	〔第3期〕特集：清宮質文の木版画／人物像／朝井閑右衛門と愛蔵の陶磁器		10月3日～12月13日
	〔第4期〕特集：飯塚鈴児の童話さし絵／東京の風景／朝井閑右衛門と田浦		12月19日～4月4日
谷内六郎展	〔第1期〕〈週刊新潮 表紙絵〉1968		4月18日～7月5日
	〔第2期〕〈週刊新潮 表紙絵〉1969／週刊新潮 700号記念公開制作／1/5展		7月11日～9月27日
	〔第3期〕〈週刊新潮 表紙絵〉1970／北杜夫との仕事		10月3日～12月13日
	〔第4期〕〈週刊新潮 表紙絵〉1971／週刊新潮 800号記念公開制作／テレビ出演／観音崎一日灯台長		12月19日～4月4日

【21年度の取り組み】

企画展は、子どもが親しみをもちやすいもの、海外の美術、あまり知られていない作家を紹介するものなど、幅広い層に訴えるためのバランスを考慮しながら企画している。

- ・1910～30年代の日本画、洋画、工芸・図案を中心に、幕末期の植物画や現代美術も含め、

4つのテーマに基づいて構成した。(花展)

- ・評価は高いが、一般には知られていない『コードモノクニ』という絵雑誌を、これまでにない規模(冊数)で展示した。(コードモノクニ展)
- ・貴重な原画多数に加え、カルタなどの資料を展示。(コードモノクニ展)
- ・パウル・クレーと日本の浮世絵をはじめとする東洋美術との知られざる関係を紹介。(クレー展)
- ・日本のアクション・ペインティングのパイオニアである白髪一雄の没後初となる本格的な回顧展。(白髪展)
- ・初期に描いたエスキース、作品計画帳などの資料、映像を展示に取り入れた。(白髪展)
- ・出品作だけでなく、多くの作品資料や自筆文献をカタログに採録した。(白髪展)
- ・画壇を牽引してきたベテラン洋画家の仕事に注目し、この50年間の洋画の成果を概観。「新しさ」とは異なる視点から「現代」の表現にアプローチすることを試みる(ワンダーシニア)

所蔵品展では、作家の小特集や特別展示を行って変化をつけ、つねに新鮮な展示となるように工夫を重ねている。

- ・嶋田しづ(1923-)の作品を特集。(第1期・展示室8、ギャラリー)
- ・朝井閑右衛門と関係の深い新樹会のメンバーの作品を展示(第1期・ギャラリー)
- ・朝井閑右衛門の作品から、物語を主題とした様々なモチーフを用いた作品を紹介(第1期・展示室5)
- ・借用作品による特集展示(特集：滝波重人)を実施。(第2期・展示室8、ギャラリー)
- ・清宮質文の木版画を特集。(第3期・展示室8)
- ・所蔵品に見る人物画、肖像を特集。(第3期・展示室4)
- ・朝井閑右衛門愛蔵の陶磁器と、それらに関連する作品をならべ、絵画とそのモチーフを見比べる展示とした。(第3期・展示室5)
- ・三浦市出身の植松眞治の作品を紹介。(第3期・展示室6・7)
- ・東京の風景を描いた作品を特集(第4期・展示室4)
- ・朝井閑右衛門による横須賀、田浦を描いた作品を特集(第4期・展示室5)
- ・所蔵する麻生三郎、鶴岡政男の全作品を展示(第4期)
- ・横須賀市出身で市民に人気の高い飯塚鈴児の作品を借用し紹介(第4期・展示室8)

谷内六郎展では、それぞれの年の谷内の活動にちなんだ作品や資料の展示をあわせて行っている。

- ・入口にアドバイザー谷内氏によるあいさつパネルを掲出(第1期)
- ・週刊新潮の700号を記念して、谷内が公開制作を行った作品《里の秋》を展示。(第2期)
- ・仲間と5人で行っていった「1/5展」の資料を展示。(第2期)
- ・ユーモア作家・北杜夫との仕事を紹介。本の装幀や挿絵の原画、北杜夫が自宅に「建国」した「マブゼ共和国」の通貨(デザインを谷内が担当)などを展示。(第3期)
- ・TV番組に出演した経験をもとに制作した作品、週刊新潮の800号記念の際に公開制作した作品、観音埼灯台で一日灯台長をしたときの資料を展示(第4期)

【22 年度以降の課題】

横須賀美術館ならではの独創的な企画をいかに作ってゆくかを、ひきつづき大きな課題としたい。

b. 講演会・アーティストトークなどの開催

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21 年度の状況】

展覧会関連の教育普及事業として、外部講師を招いて講演会を開催している。今年度の実施内容・講師は下記の通り。

		講師	開催日	参加人数
花展	アーティストトーク・須田悦弘	須田悦弘(美術家)	4 月 25 日	43
	路傍の花を描くーもうひとつの植物画の系譜	寺門寿明(水戸市博物館長)	4 月 29 日	48
コドモノクニ展	童画のホップ・ステップ・ジャンプ	小野かおる(絵本作家)	7 月 25 日	37
クレー展	ドイツ近代の画家たちと浮世絵	西村勇晴(美術史家)	10 月 13 日	34
	パウル・クレーも魅了された『北斎漫画』	小林忠(千葉市美術館長・学習院大学教授)	10 月 20 日	47
白髪一雄展	白髪一雄 人と芸術	平井章一(国立新美術館主任研究員)	11 月 3 日	34
ワンダーシニア 30 展	ワンダーシニア 30 展講演会①	島田章三(出品作家・横須賀美術館長)	2 月 13 日	70
	ワンダーシニア 30 展講演会②	堺屋太一(経済評論家)	2 月 18 日	73
	ワンダーシニア 30 展講演会③	吉田喜重(映画監督)	3 月 27 日	82
所蔵展	アーティストトーク・滝波重人	滝波重人(美術家)	8 月 8 日	15
谷内展	六郎さんの宇宙	天野祐吉(コラムニスト)	12 月 12 日	50

【21 年度の取り組み】

- ・出品作家のお話を聞くことで、花展への理解を深めるとともに、美術への親しみを増してもらうことを目的とした。(アーティストトーク・須田悦弘)
- ・五百城文哉のほか、木下奎太郎や福永武彦ら文学者の残した晩年の植物画(素描)をスライドショーで紹介。(路傍の花を描く)
- ・展覧会のテーマである「クレーと東洋美術」を、さらに広い文脈で理解することを目的とした。(ドイツ近代の画家たちと浮世絵)
- ・クレーも写した『北斎漫画』の魅力について、江戸絵画がご専門の小林忠氏にお話いただいた。北斎が浦賀に滞在したことがあるという話を知らない地元の方は驚いておられた。(パウル・クレーも魅了された『北斎漫画』)
- ・展覧会監修者によって、白髪一雄の画業をわかりやすく紹介してもらう。(白髪一雄 人と芸術)

- ・ 出品者の数が多く、出品作家一人ひとりへのなじみは薄い展覧会であることを踏まえ、展覧会が立ち上がってすぐの早い時期に、展覧会の趣旨説明的な内容の講演会を行った。また、出品者の一人ひとりについて、スライドレクチャーの手法で作品紹介を行い、展覧会への理解を深めてもらえるよう配慮した。(ワンダーシニア関連 島田章三講演会)
- ・ 出品作家と同世代の経済評論家・堺屋太一氏を講師にむかえ、昭和から平成へと時代が移り変わるなかでの、社会や世相の変化についてお話いただいた。(ワンダーシニア関連 堺屋太一講演会)
- ・ 出品作家と同世代の映画監督・吉田喜重氏を講師にむかえ、映画との違いを通して、絵画の特性をお話いただいた。(ワンダーシニア関連 吉田喜重講演会)
- ・ 生前の谷内六郎と交流のあった講師から、谷内の人となり、同時代的な事柄をうかがう。作品批評の観点からも話していただいた。(六郎さんの宇宙)

【22年度以降の課題】

観覧者の知的向上心を満足させられる、質が高く、かつわかりやすい講演会を引き続き企画する。

展覧会の内容との関わり（概要をわかりやすく示す、より深く知る、別の視点から見直す、など）を具体的に意識し、想定される聴講者層への訴求を行う。

c. 一般向けワークショップなどの開催

【1次評価】

	21 年度
評価	A

【21年度の状況】

展覧会に関連するワークショップのほか、やや高度な技法に挑戦する「オトナ・ワークショップ」、すぐれた映画作品を紹介する「シネマパーティー」などの事業を継続的に実施しており、特色ある企画として定着しつつある。今年度の実施内容と講師は下記の通り。

		講師	開催日	参加人数
花展	花を描く—新しい技法に挑戦	小山利枝子(画家)	5月16日、17日	計 51
クレ－ 展	鉛筆で描く水墨画	フジイ・フランソワ(画家)	9月27日	18
白髪一 雄展	ひもで、せんを、むすぶ。	倉科勇三(造形作家、園田 学園女子大学講師)	11月7日	74
谷内六 郎展	ROKURO こけし教室—谷内六 郎とこけしのすてきな関係	沼田元気(芸術家・写真家・ 詩人)	12月13日	33
映画上 映会	春のシネマパーティー「のんき大 将」	キノ・イグルー(シネクラブ)	5月30日、31日	計 49
	夏の野外シネマパーティー「マ イ・シスターズ・キッズ」	キノ・イグルー(シネクラブ)	9月5日	約 350
スライド ショー	トヨダヒトシ Visual Diary / Slide Show	トヨダヒトシ(写真家)	9月11日、12日、 13日	約 250 (のべ)
オトナ・ ワー ク ショ ップ	混合技法—水と油が手をつなぐ —	滝波重人(美術家)	8月29日・30日	14
	カタカタのカタゾメフロシキ	kata kata(染色作家)	10月24日・25日	16

※子供向け・福祉関連ワークショップは別項

【21年度の取り組み】

- ・「花展」出品作家によるワークショップ。花をモチーフにしながらも、形の再現にこだわらず、絵の具のにじみやぼかしを生かした即興的な描写方法を経験するなかで、花の表現の面白さと可能性を体感してもらう。予期したよりも子どもの参加者が多く、大人でも描くことに慣れていない初心者の参加が目立った。講師によるギャラリートークを取り入れ、鑑賞体験と制作との連動をはかった。(花を描く)
- ・江戸時代の絵画を元に、ユーモアを含む作品を制作している画家フジイフランソワ氏を講師に迎え、鉛筆など日本画では一般に使わない材料で「水墨画」を描くワークショップ。(鉛筆で描く水墨画)

- ・「白髪一雄展」関連企画として、ごく単純な「ひもをむすぶ」という行為を通じて新しい発見をすることを目的としたワークショップ。美術館前芝生広場に、あらかじめ何本か「幹線」となる長いひもを垂らしておき、「ひもを自由にむすんでみてください」と促した。その結果、何が生まれるかといった目的は特に設定せず、自ら行っているうちにそれぞれの個性を見出してゆく。また当日自由参加、年齢不問として、様々な年齢層の人々が気軽に参加できることを目指した。(ひもで、せんを、むすぶ)
- ・谷内六郎とこけしや鳴子とのつながりを紹介。こけしに関するレクチャーとこけし木地への絵付け体験を通じ、六郎が感じていたこけしの魅力を体感してもらう。また、若い女性が多い沼田ファンにとって、谷内六郎の存在を知るきっかけとなることを目指した。(ROKUROこけし教室)
- ・レンタルDVD等では見られない昔のフランス映画の上映と、今雑誌等で人気のケータリング屋のフードと一緒に味わうという特別な空間を美術館で楽しんでいただくことにより、近場の方と都内等遠方からの方とどちらの参加者をも引き込む。(春のシネマ・パーティー)
- ・トヨタヒトシスライドショーのために設営した巨大スクリーンを利用した野外上映会。上映作品は、本国デンマークでは、国中のほとんどの子どもが観たという人気作品だが、日本では劇場未公開であり、鑑賞の機会は貴重である。子どもだけでなく、大人が観ても満足できる作品。(夏の野外シネマ・パーティー)
- ・海の広場を活用するイベントとして企画。トヨタヒトシは、ニューヨークを拠点とし、何も跡を残さない写真表現として「スライドショー」を通して映像日記作品を発表しているアーティスト。一コマずつ現れては消えていく彼の身のまわりの人や物、日常の風景は、観るものに独特の余韻を残しつつも、時の流れとおなじく一瞬にして過ぎ去っていく。楽しい時もあれば、悲しい時もある。そんな当たり前の日常が、海の広場に設置された大きなスクリーンに明滅する夏の夜。トヨタの作品を見ることによって、鑑賞者の日常が、またちがったものになることを願いつつ、いつもより身近にアートをお楽しみいただくことを目的とした。(トヨタヒトシ Visual Diary / Slide Show)
- ・市内在住の美術家・滝波重人氏によるワークショップ。油彩とテンペラを併用する氏の技法を実際に体験することにより、所蔵品展で展示している作品への理解を深める。キャンバス作り、テンペラ作りからはじめ、制作、講評まで2日間かけて行った。(混合技法)
- ・型染と注染によるオリジナルの染布を制作している染色作家 kata kata を迎えたワークショップ。型彫り→紗張り→糊おき→浸染という型染めの行程を2日間で一通り体験できる内容となっている。(カタカタのカタゾメフロシキ)

【22年度以降の課題】

- ・きめ細かい対応が必要であることや、スペースの都合から、こうした事業ではなかなか定員を増やすことが難しい。21年度は実験的に野外スクリーンでの映画上映会を行い、多数の方に楽しんでいただいた。
- ・展覧会関連のワークショップでは特に、鑑賞との連動について配慮する。(運営的なこと)

- ・訴求先に重点を設けるなど、効率的な広報活動。
- ・参加しやすい開催日を設定する。
- ・材料費等諸経費を参加者負担とするかどうか検討する。
- ・野外上映会の恒例化。←予期した以上の動員があり、好評だった。

d. 学芸員によるギャラリートークの実施

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21 年度の状況】

	回数	合計人数	平均人数
ギャラリートーク（学芸員、ボランティア）	61	436	7.15
団体対応（学芸員）	99	3314	33.47
出張講座（学芸員）	1	12	12.00
合計	161	3762	52.62

【21 年度の取り組み】

企画展ごとに、担当学芸員によるギャラリートークを行っている。他の関連事業と重ならない範囲で行うため、会期中 3 回から 4 回程度、隔週で週末に行うのが通例となっている。チラシや HP、広報などで告知するため、これにあわせて観覧される方も多い。そのほか、要望に応じて団体観覧者などへのガイダンスを行っている。

今年度から、「サポートボランティア」の方々による所蔵品展のギャラリートークを、毎週日曜日 14:00 から実施することにした。

【22 年度以降の課題】

事業として行うギャラリートークのほかにも、積極的に会場へ出て観覧者とふれあう機会を設ける。

e. 学芸員による論文等の充実

【1次評価】

	21 年度
評価	C

【21年度の状況】

(学芸員による主な執筆活動)

執筆者	タイトル	掲載誌など	掲載年月	発行
石渡尚	菅野圭介の芸術— 画風の確立まで	関東学院大学文学部紀要 116号	7月	関東学院大学人文 学会
	作家略歴	「ワンダーシニア 30」展図録	2月	横須賀美術館
沓沢耕介	作品解説	「近代日本美術の名品でたど る 花—美と生命のイメージ」 展図録	4月	横須賀美術館
	作家解説	「日本の美術館名品展」図録	4月	美術館連絡協議会
	作家解説	「手のひらのモダン—『コドモノ クニ』と童画家たち」展図録	6月	横須賀美術館
	(編)関連年譜			
	この1点 菅野圭介 《ピレネー》	Corridart vol.5	3月	横須賀美術館
工藤香澄	白髪一雄の作品計 画帳(1956年)に関 する一考察	「白髪一雄展 格闘から生ま れた絵画」図録	4月	白髪一雄展実行委 員会
	(章解説)初期作品			
	この1点 白髪一雄 《作品Ⅲ》	Corridart vol.4	9月	横須賀美術館
	作家略歴	「ワンダーシニア 30」展図録	2月	横須賀美術館
立浪佐和子	シュルレアリスムの 中に咲く花	「近代日本美術の名品でたど る 花—美と生命のイメージ」 展図録	4月	横須賀美術館
	作品解説			
	作家解説	「日本の美術館名品展」図録	4月	美術館連絡協議会
	作家略歴	「ワンダーシニア 30」展図録	2月	横須賀美術館
富田康子	花の表現—その成 立の条件	「近代日本美術の名品でたど る 花—美と生命のイメージ」 展図録	4月	横須賀美術館
	(章解説)科学の目、 写実の心 絵画と近 代植物学の接点			
	(章解説)花の命に 迫る 大正・昭和の			

	細密描写を中心に			
	(章解説)図案に見る花 1920-30 年代の工芸作品を中心に			
	(章解説)さまざまな視点 抽象化と多彩な造形			
	作品解説			
	作家解説	「日本の美術館名品展」図録	4 月	美術館連絡協議会
	作家略歴	「ワンダーシニア 30」展図録	2 月	横須賀美術館
中田貴絵	『コドモノクニ』概説	「手のひらのモダン—『コドモノクニ』と童画家たち」展図録	6 月	横須賀美術館
	(章解説)『コドモノクニ』の編集理念とグラフィズム			
	(章解説)『コドモノクニ』につどった童画家たち			
	(章解説)1920～30 年代 子どもたちの夢の生活			
	(章解説)夢のその先—『コドモノクニ』終刊			
	作家解説			
	作家解説	「日本の美術館名品展」図録	4 月	美術館連絡協議会
塙萌衣	作家略歴	「ワンダーシニア 30」展図録	2 月	横須賀美術館
林田ゆみ子	横須賀美術館建築ガイド	Corridart vol.5	3 月	横須賀美術館
日野原清水	作家解説	「日本の美術館名品展」図録	4 月	美術館連絡協議会

【21 年度の取り組み】

- ・菅野圭介の出生・幼少期から説き起こし、洋画家を志して独自の画風を確立するまでの前半生を、資料を博搜してまとめあげた労作であり、菅野圭介研究の礎となる論文である。(石渡尚「菅野圭介の芸術—画風の確立まで」)
- ・パフォーマンスや立体として捉えられがちな白髪一雄の初期作品が、作家の意識としては「平面」であったことを確認したうえで、これらの作品を読み解く鍵として、1956 年から書かれた「作品計画帳」を紹介している。さらに、この資料などから、白髪の試みが、鑑賞者の参加や偶然性を作品に取り入れようとするものであったことを指摘した。戦後美術史に重要な足跡を残した白髪一雄の評価を進めてゆくために必要な、初期作品

への認識を明示している。(工藤香澄「白髪一雄の作品計画帳(1956年)に関する一考察」)

- ・第一次大戦後のフランスで生まれたシュルレアリスムが、同時代の日本では理論的にも形式として若い画家たちに受容されたことを前提として、吉原治良、福沢一郎、今井憲一、薮光、寺田政明らにとっての「花」のモチーフが、どのような意味を持っていたか、について、それぞれの画歴をひもときながら、作品に則して丁寧に検討している。

(立浪佐和子「シュルレアリスムの中に咲く花」)

- ・古くからくりかえし使われてきた「花」のモチーフが、日本の近代においてどのように咀嚼され、あらためてモチーフとなりえたのか、独自性豊かな多角的な観点から捉えなおし、新たな意義を見出している。(富田康子「花の表現―その成立の条件」)

【22年度以降の課題】

学芸員による執筆活動は、現状では量的に見て豊富とはいえない。また、概説や一般論的なものばかりでなく、より独自性のある研究(たとえば地域に密着した)が期待される。

⑤福祉活動の展開

【評価指標】

・年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人が充実した時間を過ごすための環境づくりを積極的に行っている。

a. 福祉とアートをテーマとした講演会の開催

【1次評価】

	21年度
評価	B

【21年度の状況】

・視覚に障害のある人にとっての美術鑑賞のあり方についての講演会を、開館準備段階の平成18年度から継続的に行っている。

		講師	開催日	参加人数
福祉	もうひとつの鑑賞法 手でみる 美術—ループル美術館の実践 活動から	シリル・グイエット (ループル美術館視覚障害 者美術教育主任) ※通訳付き	8月2日	27

・その他、トヨタヒトシスライドショーでは、作家の強い希望もあり、聴覚障害者に向けての告知（市内の手話通訳勉強会や神奈川県聴覚障害者センターを通して）を行い、手話通訳も行った（13日の始めから終わりまで）。

【21年度の取り組み】

・ループル美術館の充実した研究内容は、視覚障害者に向けての実践活動でありながら、晴眼者にも新たな美術鑑賞のヒントを与える。視覚障害者や、視覚障害者と関わるさまざまな現場で働く方、視覚だけに頼らない鑑賞を模索する方などに、この講演会を通じて今後の活動の手がかりを見つけてほしいと考えた。

・参加者は、視覚障害者をサポートするグループの方、博物館実習やインターンとして美術館に研修に来ていた学生が主であった。

視覚障害者のサポートに関わっている方は、講演を興味深く聞き、触察本などの資料にも関心を示していた。学生らは、講演で紹介された方法があること自体に驚き、興味を持ったようだった。

【22年度以降の課題】

・参加者の増加が例年の課題となっている。

・広報対象を再考し、情報がより広範囲へと届くようにしたい。

b. 障害児者を対象としたワークショップの開催

【1次評価】

	21 年度
評価	A

【21 年度の状況】

- ・「みんなのアトリエ」として、障害児を対象とした造形ワークショップを年 12 回開催している。回ごとに素材や技法に変化をつけ、造形の楽しさを実感できるよう工夫しており、参加者から好評を得ている。
- ・金沢健一〈音のかけら〉ワークショップでは、視覚障害者の参加を呼びかけ、2 日間で全盲の方を含め 5 名の参加があった。

		講師	開催日	参加人数
福祉	障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」	後 藤 敦 史 (造 形 作 家)	毎月第 土曜日	計 101
	コネコネンド(粘土をつかった活動)		4 月 18 日	10
	ダダダンボール(ボール紙をつかった活動)		5 月 23 日	12
	くしゃくしゃぺったんガムテと新聞(ガムテープと新聞紙をつかった活動)		6 月 20 日	7
	みんなでみんなで大きな絵(絵の具をつかった活動)		7 月 18 日	8
	木と木と木と木と木でつくる(木をつかった活動)		8 月 15 日	7
	紙だ！ホチキスキッズ！(紙とホチキスをつかった活動)		9 月 19 日	13
	コネコネンド Part2		10 月 17 日	9
	ダダダンボール Part2		11 月 21 日	7
	くしゃくしゃぺったんガムテと新聞 Part2		12 月 19 日	7
	みんなでみんなで大きな絵 Part2		1 月 30 日	11
	木と木と木と木と木でつくる Part2		2 月 20 日	10
	紙だ！ホチキスキッズ！Part2		3 月 20 日	12
	金沢健一〈音のかけら〉ワークショップ—見る音・聴く音・触れる音	金 沢 健 一 (彫刻家)	3 月 13 日、14 日	16

【21 年度の取り組み】

- ・講師の後藤氏は材料・用具に工夫を凝らし、車椅子利用の子から難聴の子まですべての子どもに対応出来るよう努めている。様々な個性の子どもたちが楽しく、のびのびと活動できる環境づくりは大変だが、サポートボランティアの協力(のべ 43 名)を得て、保護者と共に楽しい活動の展開がなされている。(みんなのアトリエ)
- ・平成 19 年以降、21 年 7 月までに制作した作品をまとめ、7 月 20 日から 31 日までの間、ワークショップ室に展示した。(みんなのアトリエ)

- ・「見る」という視覚的な行為にとどまらず、触・聴・嗅など身体全体で感じるアート体験として作品を制作・鑑賞する。講師は、音や振動をキーワードに、鉄を素材とした作品を制作する彫刻家・金沢健一氏。ワークショップでは、講師の指導のもと、鉄を熔断して各自の〈音のかけら〉を制作する。熔断の仕方や大きさによって叩いたときに生じる音の変化、鉄そのものの存在感、鉄片の形の面白さの発見など、新鮮な驚きと刺激を体験することができる。(音のかけら)
- ・感想には「健常者と障害者が一緒にできるワークショップはあまりないのでまた開催してほしい。」「またこうした企画を行ってほしい」という意見をいただき、好評だった。(音のかけら)

【22年度以降の課題】

- ・「みんなのアトリエ」については、当面現在の実施方法を継続していきたいと考えている。共同制作の作品展示の機会を今後も設けていきたい。
- ・視覚障害者を対象とする事業の広報について、チラシに部分的にでも点字を使用するなどの配慮が必要。

c. 障害者施設、高齢者施設などの受け入れ

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21年度の状況】

障害者、高齢者の団体に対して、必要に応じてなるべく不便のないように配慮し、場合によってはワークショップ室などの場所を提供している。とくに、市内外の養護学校については、要望に応じ協力して造形ワークショップを行っている。

(ワークショップなど、学芸員が対応したケース)

来館日	種別	団体名	備考	下見日	人数
4月30日	ワークショップ	市立養護学校小学部4、5年	2グループに分かれ、企画展(花展)、所蔵品展を鑑賞 昼食 缶バッジづくり		26
6月30日	概要	武山養護学校	企画展(「コドモノクニ」)鑑賞 昼食 自由観覧	5月13日	43
7月3日	概要	武山養護学校	企画展『コドモノクニ』鑑賞	6月22日	27
9月25日	ワークショップ	市立養護学校小学部1～3年	エコバッグづくり 昼食 谷内六郎展鑑賞	7月16日	25
3月5日	ワークショップ	市立養護学校中学部	エコバッグづくり 昼食 鑑賞	7月16日	13

(その他、車椅子利用のため駐車場所提供等の対応をした高齢者団体・障害者団体)

来館日	団体名	備考	下見日	人数
4月9日	ひぎりりハビリ教室さわやかな会			25
4月23日	保健所健康づくり課	ワークショップ室使用		50
5月18日	社会福祉法人湘南アフタケア協会		4月28日	30
7月23日	さくらの里デイサービスセンター			19
8月7日	社会福祉法人みなと舎ゆう			9
8月5日	福井記念病院デイケアセンター			15
9月21日	いちばん星(障害者施設)			6
2月8日	レストヴィラ弥生台(介護施設)	車椅子2台貸出		17

2月23日	みのりの家			12
3月11日	レストヴィラ久里浜(介護施設)			46
3月8日	福井記念病院デイケアセンター			12

【21年度の取り組み】

- ・地下駐車場から展示室内へは、エレベータを利用して移動でき、バリアフリーとなっているが、車椅子利用の方がバスなどで多数来館される場合は、時間がかかってしまうので、便宜のためにバスごと1階のレベルに上がってきてもらう措置をとっている。
- ・市立養護学校からの要望に応じて、来館時にワークショップ室をつかった造形活動の機会を提供している。先生方と事前に打合せし、共同で実施している。

【22年度以降の課題】

- ・養護学校と共同で行うワークショップのあり方については、鑑賞体験との関連付けなど、課題も多い。よりよい体験学習となるように模索していきたい。
- ・視覚障害者への対話鑑賞については、21年度は実施の機会がなかった。受け入れを行っていることの周知をはかるいっぽう、少ない機会をとらえて職員のスキルを向上させてゆくことも課題である。
- ・高齢者の利用を想定して「大きな文字の館内案内」パンフレットを作成・館内で配布しているが、弱視者にとっては白黒反転させたものでないと読み取りにくい、という指摘があり、改善してゆく必要がある。また、視覚障害者のための触知による鑑賞・案内キットの開発についても課題とする。

d. 託児サービスの実施

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21年度の状況】

小さな子どものいる人にも、展覧会をゆっくり楽しむ機会を提供するために、託児サービスを行っている。月 1 回の定期的実施、およびイベント開催時（スポット）に合わせて募集し、年間 24 回の実施を目指している。

（託児サービスの実施状況）

	月日	曜	種別	行事名	応募者	受託児数
1	5月5日	火	スポット	こどもワークショップ「大きな写真に絵を描こう！」	4	0
2	5月6日	水	スポット		3	0
3	5月16日	土	スポット	花展ワークショップ「花を描く」	1	1
4	5月17日	日	スポット		0	0
5	5月30日	土	定期	花展	2	1
6	6月28日	日	定期	コドモノクニと童画家たち展	0	0
7	7月25日	土	定期	コドモノクニと童画家たち展	5	4
8	8月8日	土	スポット	コドモノクニ展ワークショップ「へんてこおぼけ大集合！」	0	0
9	8月9日	日	スポット		2	0
10	8月23日	日	定期	コドモノクニと童画家たち展	0	0
11	8月29日	土	スポット	オトナ・ワークショップ「混合技法—水と油が手をつなぐ—」	0	0
12	8月30日	日	スポット		0	0
13	9月26日	土	定期	クレー展	2	2
14	9月27日	日	スポット	クレー展ワークショップ「鉛筆で描く水墨画」	0	0
15	10月3日	土	スポット	こどもワークショップ「Goma のフカフカパンくっしょんをつくろう！」	5	5
16	10月4日	日	スポット		5	5
17	10月18日	日	定期	パウル・クレー展	1	1
18	10月24日	土	スポット	オトナ・ワークショップ「カタカタノカタゾメフロシキ」	2	2
19	10月25日	日	スポット		2	2
20	11月7日	土	スポット	白髪展講演会「白髪一雄 人と芸術」	0	0
21	11月28日	土	定期	白髪一雄展	1	0
22	12月12日	土	スポット	谷内六郎館講演会「六郎さんの宇宙」	0	0
23	12月13日	日	スポット	谷内六郎館ワークショップ「ROKURO こけし教室」	2	2
24	12月27日	日	定期	白髪一雄展	1	1
25	1月30日	土	定期	児童生徒造形作品展	0	0

26	2月28日	日	定期	ワンダーシニア 30	2	0
27	3月13日	土	スポット	福祉ワークショップ「見る音・聴く音・触れる音」	0	0
28	3月14日	日	スポット		0	0
29	3月27日	土	定期	ワンダーシニア 30	2	2
					42	28

【21年度の取り組み】

申し込みがあつてから受託業者である NPO と契約を結ぶため、2週間前を申し込みの〆切としている。託児実施までの間、預かる子の禁忌事項をはじめ、好きな遊び、呼び名などについて詳細にヒアリングし、当日の子どものストレスを軽減するための工夫につなげている。

月 1 回の定期的日程について利用案内のパンフレットを作成し、公共施設や子ども関連施設に配布したほか、ホームページへ掲載し、利用を促している。

【22年度以降の課題】

利用者にはよろこばれており、リピーターもいる。潜在的なニーズは高いと思われるが、応募者が少なく、実施に至らないケースが多いことが課題。さらに周知につとめる必要がある。

⑥学校との連携

【評価指標】

- ・教師との緊密な連携によって、児童生徒にとって親しみやすい鑑賞の場を提供している。
- ・鑑賞の場としてはもちろん、社会見学そのほかの美術以外の分野でも協力関係がもたれている。

a. 児童生徒造形作品展の開催

【1次評価】

	21年度
評価	B

【21年度の状況】

市立の小中高校、幼稚園の児童生徒の作品展。文化会館で開催されていたが、20年度より会場を美術館に移した。

児童生徒造形作品展	横須賀市造形教育研究会と共催	1月17日～2月3日
-----------	----------------	------------

アンケートからは、観覧者のほとんどが市民であることが確認できる。満足度は非常に高いレベルである。滞在時間は、通常は平均2.5～3程度で推移しているが、本展では1.85と極端に短い。

【21年度の取り組み】

- ・市立の幼稚園、小学校、中学校、高校、ろう学校、養護学校の各校より選抜された、平面作品や立体作品など約3,000点を展示する。小学校立体作品は委託題材から各校が選択し、研究成果を題材別に展示、平面作品は各校種、各学校ごと展示する。
- ・豊かな心を育て、意欲的な表現・自分らしい工夫の出来る子ども達を育み、横須賀の美術教育が益々充実発展するための支援と、その活動を通して夢の溢れた子どもたちの作品を市内外を始め多くの方々にご覧いただく。また、学校と美術館が連携を深め、子どもたちの造形教育・美術館教育を推進する。
- ・展示・撤収作業は業者でなく、各校の教諭と美術館職員が協力して行っている。
- ・昨年度の会期は11日間で、週末が1度しか含まれていなかったが、今年度は要望に応えるかたちで18日間に拡大した。
- ・子どもたちの造形教育にとって貴重な発表の機会であるばかりでなく、ふだん美術館を訪れる習慣のない層にとっても来館の動機となりやすい展覧会であり、市民に親しまれる美術館となっていくためにも大きな役割を果たしている。

【22年度以降の課題】

- ・観覧者数の内訳は大人9,697人、子ども5,704人 計15,401人であった。
次年度は子ども向け広報の充実を図りたい。

b. 小学校美術館鑑賞会の受け入れ

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21年度の状況】

全ての市立小学校の6年生を対象として、鑑賞会を行っている。

	実施日	曜日	来館校	児童数	対応職員数	ボランティア数
1	7月1日	水	根岸小学校	81	2	2
2	7月2日	木	鶴久保小学校	99	3	3
3	7月3日	金	大楠小学校	66	2	2
4	7月8日	水	汐入小学校	18	1	2
5	7月8日	水	追浜小学校	20	1	2
6	7月9日	木	大津小学校	85	2	4
7	7月10日	金	野比小学校	74	2	2
8	7月13日	月	大矢部小学校	89	2	3
9	7月14日	火	栗田小学校	63	2	1
10	7月15日	水	小原台小学校	108	2	2
11	7月16日	木	荻野小学校	84	2	2
12	7月17日	金	津久井小学校	89	2	2
13	9月3日	木	馬堀小学校	41	1	3
14	9月4日	金	長浦小学校	44	2	3
15	9月8日	火	諏訪小学校	55	2	1
16	9月9日	水	富士見小学校	75	2	2
17	9月10日	木	望洋小学校	114	2	3
18	9月11日	金	田浦小学校	50	2	1
19	9月15日	火	光洋小学校	20	1	1
20	9月17日	木	長井小学校	85	2	3
21	9月18日	金	北下浦小学校	79	2	2
22	9月24日	木	森崎小学校	70	2	3
23	10月8日	木	豊島小学校	49	2	2
24	10月15日	木	夏島小学校	70	2	3
25	10月16日	金	船越小学校	84	2	3
26	10月22日	木	大塚台小学校	167	3	5
27	10月23日	金	城北小学校	91	2	2
28	10月30日	金	逸見小学校	38	1	1

29	11月4日	水	山崎小学校	91	2	2
30	11月5日	木	高坂小学校	66	2	2
31	11月6日	金	鷹取小学校	45	2	2
32	11月10日	火	明浜小学校	174	2	2
33	11月11日	水	久里浜小学校	91	2	2
34	11月12日	木	神明小学校	101	2	2
35	11月13日	金	田戸小学校	99	2	2
36	11月20日	金	野比東小学校	70	2	2
37	11月26日	木	平作小学校	39	2	2
38	11月27日	金	池上小学校	100	2	3
39	12月1日	火	走水小学校	14	1	1
40	12月2日	水	沢山小学校	28	1	1
41	12月11日	金	公郷小学校	134	2	4
42	12月21日	月	浦郷小学校	77	2	2
43	1月22日	金	岩戸小学校	79	2	2
44	1月22日	金	鴨居小学校	89	2	3
45	1月28日	木	桜小学校	69	2	2
46	1月28日	木	浦賀小学校	113	2	3
47	1月28日	木	武山小学校	116	2	3
48	2月2日	火	衣笠小学校	84	1	1
			計48校	3687	90	108

【21年度の取り組み】

各校の来館希望を学校教育課でとりまとめ、調整して年度当初に予定を組んでいる。

移動手段は貸切バスであり、学校教育課の予算で、路線バスの車両が空いている時間帯を利用し、湘南京急バスと契約している。

受け入れには学芸員とボランティア（サポートボランティア）があたる。事前に、引率する先生方と指導方針について打合せし、館内でのルールの説明や鑑賞の手助けをしている。大人数での来館のため、きめ細かい対応には自ら限界があるが、鑑賞シートなどの教材を活用して、多くの子どもたちに美術鑑賞の楽しさを伝えられるよう努力している。

【22年度以降の課題】

鑑賞教育の重要性を認識している先生ばかりではない。事業目的についての先生方の理解と、協力を得ていくことが長期的な課題といえる。

開催中の展覧会の本数や、内容によっても、子どもたちの鑑賞にとって適切な時間は変化する。鑑賞シートの内容などでうまく調整し、時間が不足したりあまったりしないようにきめ細かく配慮する必要がある。

c. 中学生のための美術鑑賞教室の開催

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21 年度の状況】

応募者を対象として、中学生のための美術鑑賞教室を行っている。学年全員を招待する小学校の鑑賞会と異なり、興味のある生徒が応募するので、よりきめ細かい対応が可能となっている。学校だけでは行いにくい鑑賞教育を実践する場を提供している。

	参加者数
7 月 27 日	33
7 月 31 日	30
8 月 4 日	25
8 月 11 日	21
8 月 12 日	21
8 月 22 日	27
8 月 23 日	10
8 月 27 日	5
計	172

【21 年度の取り組み】

- ・夏休み中の中学生を対象とした鑑賞教室。バックヤードツアーと、展示室での自由鑑賞を中心に、鑑賞ガイドの配布と展示室での積極的な話しかけ、および図書室への誘導によって、中学生の鑑賞活動を支援した。特に、美術鑑賞の宿題が出ている中学生へのサポートに力を入れた。
- ・ただし、昨年度までは、学校単位での参加を前提として募集および日程調整を行い、学校ごとに来館してもらっていたが、今年度からは、個人参加を前提としたプログラムに切り替えた。参加形態についても、申込みなしの当日自由参加を受け入れることとした（市内各中学校とは連絡をとり、参加希望者数の把握にはつとめた）。
- ・昨年まで行ってきた交通手段の保証（借り上げバス）や交通費の補助（実費の支給）を取りやめ、原則として、中学生の自発的な意思による個人参加とした。

【22 年度以降の課題】

- ・「鑑賞ガイド」を 1000 部作成したが、途中で不足し、カラーコピーで補うことになってしまった。同行する保護者にも配布したほうがよいので、2000 部は必要。
- ・インターネットで知った 25 名の市外生徒の参加があった（横浜 12 名・藤沢 8 名・逗子 1 名・茅ヶ崎 2 名・東京 2 名）。今後は市外に向けても広報してゆく。

d. 研修等(職業体験、インターンシップなど)の受け入れ

【1次評価】

	21年度
評価	B

【21年度の状況】

中学生の職場体験、博物館学芸員資格取得のための学芸員実習の受け入れを行った。

(中学生職場体験の受入状況)

学校名	実施日	日数	人数
坂本中学校	5月19日～5月21日	3日間	3人
馬堀中学校	6月16日～6月18日	3日間	2人
不入斗中学校	6月29日～7月1日	3日間	3人
北下浦中学校	11月10日～11月12日	3日間	中止*
野比中学校	11月10日～11月12日	3日間	中止*
上の台中学校	1月27日～1月29日	3日間	2人
常葉中学校	2月3日～2月5日	3日間	2人
鴨居中学校	2月3日～2月4日	2日間	2人
岩戸中学校	2月4日～2月5日	2日間	2人
追浜中学校	1月27日～1月28日	2日間	2人
計10校		のべ27日間	計18人

* インフルエンザ流行のため

(学芸員実習の受入状況)

関東学院大学文学部比較文化学科	8月1日～8月6日	6日間	5人
東京学芸大学教育学部芸術文化課程美術専攻			
昭和音楽大学音楽学部器楽学科トロンボーン専攻			
共立女子大学国際文化学部国際文化学科ヨーロッパ文化コース			
東海大学文学部歴史学科西洋史専攻			

【21年度の取り組み】

1. 中学生職場体験

受け入れプログラムは、前年度と同様、教育普及事業の疑似体験として、所蔵作品を紹介するギャラリートークを中心に、小学生鑑賞教室の補助なども積極的にプログラムに組み入れている。このほか、学芸員が行っているチラシ配布などの作業に加え、駐車券作りなどの事務作業も取り入れ、美術館業務をより幅広く知ってもらえるよう工夫している。

(中学生職場体験プログラムの一例)

	10:00～11:00	11:15～12:15	12:15～13:00	13:00～14:00	14:15～15:15
--	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

1日目	ガイダンスと館内 見学	図書室の使い 方	休憩	作業① 小学生鑑賞会の 準備	ギャラリートーク 準備
2日目	作業② パンフレット訂正	Gトーク準備		小学生鑑賞会の 受け入れ補助	作業③ WSカード作成
3日目	Gトーク準備	作業④ 書類運搬整理 ／駐車券作成		Gトークとディスカッション	

2. 学芸員実習

博物館法で定める「博物館学芸員」資格の取得に必要な「博物館実習」課程の単位修得を目指す大学生・大学院生のために、下記のとおり実習生の受け入れを行った。

(学芸員実習カリキュラム)

	10:00-10:55	11:05-12:00	13:00-14:30	14:45-16:30	16:30-17:00
8月1日	オリエンテーション/講義:横須賀美術館について/11:30-館内見学		実習:アンケート調査	実習:作品採寸等	課題説明
8月2日	作業 1:講演会準備	作業 2:データ作成	見学:講演会		片付け
8月3日	見学:企画展展示 替え	作業3:バインダー 整理/データ 作成	講義:学芸員の 仕事について	講義:作品保管に ついて	見学:収蔵庫
8月4日	作業 4:宣伝物発送/データ作成		実習:中学生鑑 賞教室~15:30	自習:課題A	
8月5日	作業 5:宣伝物発送/データ作成		講義:教育普及 活動	ディスカッション:課題 B	まとめ
8月6日	作業 6:宣伝物発送/データ作成		自習:課題A	課題 A プレゼン テーション	まとめ

* 課題 A 所蔵品展の展示プラン(展示室 5 を想定。条件として所蔵品展出品作を過半数とする)

* 課題 B 横須賀美術館の広報プラン

【22 年度以降の課題】

業務繁多のなかで、職場体験の生徒や実習生を受け入れることは相当の負担である。人手が必要な教育普及事業などうまく日程を調整して、実際の戦力として働いてもらうとともに、日常では得がたい体験学習の機会を提供するように、さらに工夫したい。

⑦市民との協働

【評価指標】

- ・美術館の事業への市民参加の機会が十分に確保されている。
- ・ボランティアの主体性が尊重され、やりがいをもって活動している。

a. サポートボランティアの活動状況

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21 年度の状況】

美術館の事業をサポートするサポートボランティアは現在 9 名が活動しており、毎週日曜日に行う所蔵品展ギャラリートークや、小学校美術館鑑賞会の受け入れ補助、ワークショップ補助などの活動をしている。隔週木曜日に研修会を行い、知識や技術の向上に努めている。

(学芸業務補助の記録)

年月日	曜日	時間	内容		参加人数
			学校等の受け入れ補助 (来館した団体名)	ワークショップ等の補助 (事業名)	
4 月 5 日	日	14:00～16:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
4 月 12 日	日	14:00～16:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
4 月 18 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	2
4 月 19 日	日	14:00～16:00	所蔵品展ギャラリートーク		6
4 月 26 日	日	15:00～16:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
5 月 5 日	火	14:00～16:00		こどもワークショップ「大きな写真に絵を描こう！」	1
5 月 6 日	水	14:00～16:00			1
5 月 17 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
5 月 23 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	5
5 月 24 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
5 月 31 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
6 月 7 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
6 月 14 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
6 月 20 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	5
6 月 21 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		4
6 月 28 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3

7月1日	水	13:00～14:30	根岸小学校		2
7月2日	木	13:00～14:30	鶴久保小学校		3
7月3日	金	13:10～14:30	大楠小学校		2
7月5日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
7月8日	水	13:00～14:30	汐入小学校		2
7月8日	水	13:00～14:30	追浜小学校		2
7月9日	木	13:00～14:30	大津小学校		4
7月10日	金	13:00～14:30	野比小学校		2
7月12日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
7月13日	月	13:00～14:30	大矢部小学校		3
7月14日	火	11:00～14:00	栗田小学校		1
7月15日	水	13:00～14:30	小原台小学校		2
7月16日	木	13:00～14:30	荻野小学校		2
7月17日	金	13:00～14:30	津久井小学校		2
7月18日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	3
7月19日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
7月26日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
8月9日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
8月15日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	3
8月16日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
8月23日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
9月3日	木	13:30～14:45	馬堀小学校		3
9月4日	金	13:00～14:30	長浦小学校		3
9月6日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
9月8日	火	13:00～14:30	諏訪小学校		1
9月9日	水	13:00～14:30	富士見小学校		2
9月10日	木	13:15～14:30	望洋小学校		3
9月11日	金	13:00～14:30	田浦小学校		1
9月15日	火	13:30～14:30	光洋小学校		1
9月17日	木	13:00～14:30	長井小学校		3
9月18日	金	13:00～14:30	北下浦小学校		2
9月19日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	3
9月24日	木	13:15～14:30	森崎小学校		3
9月27日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
10月4日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
10月8日	木	12:15～13:30	豊島小学校		2
10月11日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
10月15日	木	13:00～14:30	夏島小学校		3

10月16日	金	13:20～14:40	船越小学校		3
10月17日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	4
10月18日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		1
10月22日	木	12:00～14:00	大塚台小学校		5
10月23日	金	13:00～14:10	城北小学校		2
10月25日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
10月30日	金	11:30～14:00	逸見小学校		1
11月1日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
11月4日	水	12:30～14:00	山崎小学校		2
11月5日	木	13:15～14:30	高坂小学校		2
11月6日	金	12:00～14:40	鷹取小学校		2
11月7日	土	13:30～15:00		白髪展ワークショップ 「ひもで、せんを、むすぶ」	1
11月8日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
11月10日	火	13:00～14:30	明浜小学校		2
11月11日	水	13:10～14:30	久里浜小学校		2
11月12日	木	12:30～14:30	神明小学校		2
11月13日	金	11:00～12:10	田戸小学校		2
11月15日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
11月15日	日	15:00～16:00	群馬県立近代美術館ボランティアとの交流会		8
11月20日	金	11:30～14:30	野比東小学校		2
11月21日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	2
11月22日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
11月26日	木	13:00～14:00	平作小学校		2
11月27日	金	13:00～14:00	池上小学校		3
11月29日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
12月1日	火	13:30～15:00	走水小学校		1
12月2日	水	10:00～11:30	沢山小学校		1
12月6日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
12月11日	金	13:00～14:30	公郷小学校		4
12月13日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
12月19日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	4
12月20日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		4
12月21日	月	12:45～14:15	浦郷小学校		2
12月27日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
1月17日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		3
1月22日	金	11:00～14:30	岩戸小学校		2

1 月 22 日	金	14:00～15:00	鴨居小学校		3
1 月 24 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		1
1 月 28 日	木	13:00～14:30	桜小学校		2
1 月 28 日	木	13:00～14:30	浦賀小学校		3
1 月 28 日	木	13:00～14:30	武山小学校		3
1 月 30 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	5
2 月 2 日	火	13:30～14:45	衣笠小学校		1
2 月 7 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
2 月 14 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
2 月 20 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	4
2 月 21 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
3 月 7 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
3 月 14 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
3 月 20 日	土	14:00～15:00		みんなのアトリエ	3
3 月 21 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		1
3 月 28 日	日	14:00～15:00	所蔵品展ギャラリートーク		2
107 日間					のべ 263

(研修会の開催状況)

年月日	曜日	時間		参加人数
4 月 9 日	木	14:00～	版画について	10
4 月 16 日	木	14:00～	所蔵品展作品入替えの確認	10
4 月 23 日	木	14:00～	ギャラリートークについての意見交換	10
5 月 14 日	木	14:00～	ギャラリートークについての意見交換と当番決め	9
5 月 28 日	木	14:00～	作品についてのディスカッション	6
6 月 11 日	木	14:00～	小学生用鑑賞シートの作成	5
6 月 25 日	木	14:00～	小学生用鑑賞シートの作成	8
7 月 9 日	木	15:00～	作品についてのディスカッション	6
7 月 23 日	木	14:00～	第 2 期所蔵品展解説、勉強会	6
8 月 20 日	木	14:00～	第 2 期所蔵品展解説、勉強会	8
8 月 27 日	木	14:00～	作品についてのディスカッション	9
9 月 24 日	木	15:00～	小学生用鑑賞シート打合せ	8
10 月 15 日	木	15:00～	第 3 期所蔵品展解説、勉強会	9
10 月 22 日	木	14:30～	第 3 期所蔵品展解説、勉強会	8
11 月 12 日	木	15:00～	作品についてのディスカッション	8
11 月 26 日	木	14:30～	第 4 期所蔵品展勉強会、鑑賞シート最終確認	9
12 月 10 日	木	14:00～	第 4 期所蔵品展勉強会	6
1 月 14 日	木	14:00～	小宮佐地子さんをお迎えして、飯塚鈴児について	8

1月28日	木	15:00～	ワンダーシニア 30 展の概要と第 4 期所蔵品展解説	8
2月18日	木	15:00～	サポートボランティアの活動について思うこと	9
2月25日	木	14:00～	ワンダーシニア 30 展の概要について	6
3月11日	木	14:00～	21 年度ギャラリートークの振り返り	7
3月25日	木	14:00～	22 年度第1期所蔵品展の概要	7
23 日間				のべ 180

【21 年度の取り組み】

- ・20 年度まで行ってきた研修をひととおり修了として、今年度からは実際に毎週のギャラリートークを実施していただくこととした。当初は、人前での話し方や、時間の配分に苦慮するところがあったが、経験を重ねていくにつれて、楽しんでできることが多くなったようである。
- ・小学校の鑑賞会では、多人数の小学生たちに、よりきめ細かな対応をするために、学芸員と同じように引率、語りかけをしていただいている。子どもたちといっしょに作品を鑑賞することは、大人にとっても、新しい発見につながっている。
- ・研修会は前年度から継続し、企画展や所蔵品展の展示替えに対応していくための学習、よりよいトークをするための意見交換などを行っている。
- ・小学校鑑賞会などで利用するため、所蔵作品についての鑑賞シートを、ボランティアの方々の意見を取り入れながら制作した。

【22 年度以降の課題】

- ・日曜日のギャラリートークを当番で担当することになって、ボランティアの方ひとりひとりの負担が以前よりも増した。現在の人数で回していくのはたいへんなので、新規募集をしてほしい、という要望が多く聞かれた。
- ・ボランティア活動に喜びを見出すためには、美術館からお願いすることをやらされるのではなく、どのようにすれば美術館に貢献できるのか、ボランティア自身が考えて納得する必要がある。いまお願いしている仕事内容についても、情性で続けるのではなく、ボランティア自身の経験を活かしながら、よりよいやり方に変えていきたい。

b. プロジェクトボランティアの活動状況

【1次評価】

	21年度
評価	B

【21年度の状況】

美術館をもちあげるワークショップ・イベントを企画し、実施するプロジェクト・ボランティアは現在およそ13名が中心となって活動している。21年度は夏休み（爆裂色四舞鬼）とクリスマス（海の広場のメリークリスマスⅡ）にイベントを実施し、子どもたちを中心に大勢の人に参加していただいた。企画の内容は、隔週で開かれる会議において、ボランティア同士の話し合いで決められている。

		開催日	参加人数
ボランティア企画	爆裂色四舞鬼—絵の具の海で鬼ごっこ！？	8月17日	約350
	海の広場のメリークリスマスⅡ	12月5日、6日	計116

（活動内容）

年月日	曜日	時間	活動内容	参加人数
4月11日	土	14:00～16:00	夏休みイベントのタイトル決定	7
4月25日	土	14:00～16:00	夏休みイベントの検討	6
5月16日	土	14:00～16:00	新メンバーと顔合わせ、スポンジボール投げ実験	8
5月30日	土	14:00～16:00	イベントの検討（ルール決めなど）	7
6月13日	土	14:00～16:00	イベントの検討（ディスカッション）	2
6月27日	土	14:00～16:30	イベントの検討（内容詰め）	7
7月11日	土	14:00～16:00	イベントの検討（内容詰め）	8
7月25日	土	14:00～16:00	イベントの検討（道具、布の展示、チラシなど）	6
8月1日	土	14:00～16:00	イベントの準備（「鬼箱」制作、当日の分担決めなど）	8
8月8日	土	12:00～17:00	イベントの準備（布縫製など）	6
8月15日	土	14:00～17:00	イベントの準備（色風船作り、会場準備、当日の分担確認など）	6
8月17日	月	10:00～18:00	爆裂色四舞鬼	11
8月20日	木	13:30～	布撤収	3
9月12日	土	14:00～16:00	爆裂色四舞鬼反省会、クリスマスイベントについて	6
9月26日	土	14:00～16:30	クリスマスイベント検討（スケジュール確認）	3
10月3日	土	14:00～16:30	イベント案の絞りこみ	6
10月10日	土	14:00～16:00	オーナメント検討、タイトル決め	6
10月24日	土	14:00～16:30	オーナメント、ツリーの検討	5

11 月 14 日	土	14:00～16:30	ツリー検討、流木拾い	8
11 月 15 日	日	15:00～16:00	群馬県立近代美術館ボランティアとの交流会	10
11 月 28 日	土	14:00～17:00	ツリー枠組み立て、流木加工	7
12 月 4 日	金	10:00～17:00	準備作業	5
12 月 5 日	土	9:00～16:30	海の広場のメリークリスマスⅡ	10
12 月 6 日	日	9:30～17:30		12
12 月 26 日	土	14:00～17:00	ツリー撤収、反省会	8
1 月 23 日	土	14:00～17:00	5 月イベントについて検討	8
2 月 6 日	土	14:00～17:00	イベント内容決定	8
2 月 20 日	土	14:00～17:00	くるくるお花試作	6
3 月 13 日	日	14:00～17:00	チラシ内容、くるくるお花の構造検討	4
3 月 27 日	月	14:00～17:00	チラシ、整理券について	3
30 日間				115

【21 年度の取り組み】

・美術館前の「海の広場」に 15×7m の布を 4 枚敷き、1 回戦・2 回戦を行う。

1 回戦は、青、赤、黄色、緑の 4 チームに分かれ、それぞれの布を自分たちの色でスポンジボールや水風船を用いて染めていく（制限時間 10 分）。

2 回戦は、2 チーム対抗で、相手チームの布の上で逃げまわる鬼に自分のチームの色スポンジボールを投げて染める（制限時間 5 分程度）。（爆裂色四舞鬼）

・海辺で拾った流木・貝殻・ガラス片などに彩色してオーナメントをつくり、ツリーにかざる。材料は事前にボランティアが収集し、水洗い、穴あけなどの下処理を施した。また、鉄パイプの枠組みに緑色のネットを張ったものを 2 面制作し、ツリーに見立てた。

開催 2 日目の夕方、参加者のカウントダウンののちツリーに点灯。横須賀女声合唱団にクリスマスソング 7 曲を歌っていただいた。点灯は 25 日（日）まで毎日 16:00～20:00 の間行った。（海の広場のメリークリスマスⅡ）

【22 年度以降の課題】

・20 年度の活動は、活動可能な曜日の違いから月曜班と土曜班の 2 グループがそれぞれ活動し、2 回ずつ計 4 回のイベントを行った。これではのべつ幕なしで、ボランティアも担当学芸も負担が大きく、経費のやりくりもたいへんだったので、21 年度にはプロジェクトボランティアを一本化し、イベント回数も 2 回に抑えた。しかし、ボランティアさんの間では年 3 回開催したいとの希望が強く、22 年度はゴールデンウィーク中のイベントを復活させることにした。

・いろいろな意見の人がいて調整に時間を要するため、イベント内容が決定するのがいつもぎりぎりである。材料の調達や広報活動を円滑に行うために、長期的な計画を立てられる体質に変えてゆく必要がある。

・企画に携わる中心メンバーの数が少なく、新たな参加者も長く定着しない傾向が見られる。組織のあり方について、ボランティアの自主性を尊重しながら検討していきたい。

⑧子どもたちへの美術館教育

【評価指標】

- ・コミュニケーションを通じて美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供している。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施している。

a. 子ども向けワークショップの開催

【1次評価】

	21 年度
評価	A

【21 年度の状況】

		講師	対象	開催日	参加人数
コドモノクニ展	へんてこおばけ大集合！	tupera tupera（絵本作家、イラストレーター）	5 歳以上	8 月 8 日、9 日	計 38
児童生徒造形作品展	みたてたできた〇〇みたい～真冬の昆虫採集	高木敏行（アーティスト・造形作家）	小・中学生	1 月 16 日	47
こどもワークショップ	大きな写真に絵を描こう！	福田利之（イラストレーター）	4 歳以上	5 月 5 日、6 日	計 64
	Goma のフカフカパンくっしょんをつくろう！	Goma（料理創作ユニット）	小学生以上	10 月 3 日、4 日	計 49
未就学児ワークショップ	ねんどであそぼう！	オガサワラマサコ（造形作家）	年中・年長児	3 月 6 日、7 日	計 37

【21 年度の取り組み】

- ・子ども向けワークショップは、子どもたちにとって新しい手法に触れる機会となることはもちろんだが、自由な発想を持つ子どもたちとともに制作することが、講師や付き添いの大人たちにとっても新鮮な体験となっている。
- ・応募者が定員を上回るケースがほとんどであり、学校を離れての造形体験の場としての認知が定着している。
- ・託児サービスと併用することによって、ふだん下の子にかかりきりの親と、年長の子のコミュニケーションがはかれることも効用の一つとなっているようである。
- ・「コドモノクニ」展にちなんで、絵本の主人公になったつもりでおばけのコスチュームをつくるワークショップ。つくったコスチュームを着て、特設の舞台上で「おばけショー」を

開いた。(へんてこおばけ大集合)

- ・コラージュの手法を使い、自分やペットの顔の写真を大きく引き伸して (A3 サイズ)、それにいろいろなものを貼ったりペイントしたりして作品をつくった。(大きな写真に絵を描こう)

- ・初めて未就学児向けのワークショップを行った。幼児にも取り組みやすい粘土あそびを通して体を使った造形活動を行うとともに、最終的には小さな陶製のレリーフあるいはベルをつくるところまで行う。全体で 300kg という大量の粘土を使用。講師の意向により、保護者は送り迎え時のみ入室し、ワークショップ中は完全に子どもだけで粘土あそびの世界に浸った。親が側にいないことで、より創作に集中し、知らない者同士でもなるべくつながりをもてる機会をもつようにした。(ねんどであそぼう)

【22 年度以降の課題】

- ・対象年齢によっては、作業に飽きてしまい集中していただける時間が短い参加者もいた。そうすると、半ば託児所状態になってしまう。内容と対象年齢との適切な組み合わせ、早く終わってしまった子どもへの対処に工夫が必要。

b. アーティストと出会う会の開催

【1次評価】

	21 年度
評価	A

【21 年度の状況】

講師	開催日	参加人数	中学生	高校生	その他
中川久(現代美術家)	8 月 22 日	40	27	3	9
黒井健(絵本画家)	8 月 27 日	30	9	5	16

【21 年度の取り組み】

- ・特に、美術方面の進路を考えている中高生に向けて、美術やデザインにかかわる分野で現在、活躍しているアーティストから直接話を聞く貴重な機会を設ける。中川久、黒井健の両氏を講師に迎えて 2 回実施した。
- ・作家所蔵作品 6 点を持ち込み、うち 5 点をワークショップ室へ展示（搬出は 24 日）。また、地階の展示作品を前にトーク。作品を前に語ると聞き手の反応が変わり、良かった。特に、地下の展示室で車座になったのトークは一体感のある雰囲気にも包まれた。（中川氏）
- ・画像を多く取り入れたスライドショー。制作風景や道具や材料に触れる内容。（黒井氏）

【22 年度以降の課題】

生徒の世代にとって魅力ある講師を委嘱すること、また、より多くの生徒にとって参加しやすくなるよう、開催時期の検討も含めて学校側との連携を深めることが運営上の課題。

⑨すぐれた美術品の収集・保管

【評価指標】

- ・収集方針に基づき、すぐれた作品を収集し、適切な管理をしている。
- ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の館で開催する企画展などに活用されている。

a. 作品収集の状況

【1次評価】

	21 年度
評価	C

【21 年度の状況】

作品 42 点、資料 3 件の寄贈、作品 9 点の寄託があった。

(寄贈作品)

	分類	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	油彩	伊藤久三郎	〔静物〕	1929	油彩、画布	60.5×72.9
2	油彩	伊藤久三郎	〔風景〕	不詳(1930 年頃?)	油彩、画布	72.5×91.0
3	油彩	伊藤久三郎	〔無題〕	不詳(1935 年頃?)	油彩、画布	91.0×114.5
4	油彩	伊藤久三郎	孔雀	1939	油彩、画布	90.9×72.7
5	油彩	伊藤久三郎	〔風景〕	1940	油彩、画布	52.8×65.2
6	油彩	伊藤久三郎	〔池〕	1942	油彩、画布	96.5×130.5
7	油彩	伊藤久三郎	農村風景	1943	油彩、画布	112.0×144.5
8	油彩	伊藤久三郎	堂のある山	1947	油彩、画布	116.8×91.0
9	油彩	伊藤久三郎	伽藍の鳩	1950	油彩、画布	116.8×90.5
10	油彩	伊藤久三郎	石榴	1950	油彩、画布	45.5×53.0
11	油彩	伊藤久三郎	ハイエナ	1952	油彩、画布	53.0×45.5
12	油彩	伊藤久三郎	遮蔽	1953	油彩、画布	130.5×162.2
13	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1954	油彩、画布	45.5×53.0
14	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1955	油彩、画布	160.5×130.0
15	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1955	油彩、画布	130.0×96.0
16	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	不詳(1955 年頃?)	油彩、画布	90.5×114.8
17	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1956	油彩、画布	90.0×72.5
18	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1957	油彩、画布	72.7×60.6

19	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1965 頃	油彩、画布	116.5×72.5
20	油彩	伊藤久三郎	an indifferent mask	1966	油彩、画布	161.8×112.0
21	油彩	伊藤久三郎	smoked sun	1966	油彩、画布	53.0×45.5
22	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕	1968 頃	油彩、画布	145.5×112.1
23	油彩	伊藤久三郎	ANOTHER FEATURE	1970	油彩、画布	100.0×80.3
24	油彩	伊藤久三郎	作品	1971	油彩、画布	90.9×72.7
25	油彩	伊藤久三郎	触	1971	油彩、画布	72.2×60.8
26	油彩	伊藤久三郎	作品 772 -A	1972	油彩、画布	147.0×112.5
27	油彩	伊藤久三郎	作品 772 -B	1972	油彩、画布	193.9×112.1
28	油彩	伊藤久三郎	窓	1972	油彩、画布	80.3×65.2
29	油彩	伊藤久三郎	作品 773-A	1973	油彩、画布	145.5×112.1
30	油彩	伊藤久三郎	作品	1974	油彩、画布	90.9×72.7
31	油彩	伊藤久三郎	地	1975	油彩、画布	100.0×80.3
32	油彩	伊藤久三郎	〔作品〕(絶筆)	1976	油彩、画布	162.2×112.1
33	油彩	植松眞治	ロマネスク教会	1980	油彩、画布	33.0×24.0
34	油彩	植松眞治	壁画的風景	1981	油彩、コラージュ・画布	49.5×49.5
35	油彩	小山利枝子	未知の記憶	2008	アクリル・画布	227.5×437.0
36	油彩	滝波重人	UNTITLED 95-P-2	1995	油彩、テンペラ・画布	250.0×137.0
37	油彩	滝波重人	UNTITLED 95-P-5	1995	油彩、テンペラ・画布	250.0×137.0
38	油彩	滝波重人	汽水域 07-P-12 舵を切る、青の方へ	2007	油彩、テンペラ・画布	227.0×364.0
39	水彩	滝波重人	汽水域 07-D-27	2007	水彩、パステル、テンペラ・紙	80.0×121.0
40	水彩	谷内六郎	子どものまつり	1969	水彩・紙	96.0 ×185.0
41	素描	矢崎千代二	中野美知磨像	1933	パステル・紙	33.5×24.0
42	版画	若林奮	版画集『GRASS』	1993	リトグラフ	各 93.5×75.4

(寄贈資料)

	分類	作家名	名称	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	資料	伊藤久三郎	資料 24 点			
2	資料	伊藤久三郎	スケッチブック等 一式			
3	資料	植松眞治	日仏学院のための「植物」	1990	リトグラフ	31.0×33.0

(寄託作品)

No.	分類	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
-----	----	-----	-----	-----	-------	--------

1	油彩	芥川(間所)紗織	女 C	1954	染料・布	130.3×97.0
2	油彩	芥川(間所)紗織	泉の守り神	1954	染料・布	97.0×130.3
3	油彩	芥川(間所)紗織	4人の女	1955	染料・布	130.0×89.5
4	油彩	芥川(間所)紗織	女Ⅻ	1955	染料・布	130.0×89.0
5	油彩	芥川(間所)紗織	民話より	1955	染料・布	130.0×89.0
6	油彩	芥川(間所)紗織	神話より 4	1956	染料・布	130.3×162.0
7	油彩	芥川(間所)紗織	スフィンクス	1964	油彩・画布	130.3×162.0
8	水彩	チャールズ・ワグマン	美濃国地獄谷景	1875	水彩・紙	22.0×31.0
9	水彩	チャールズ・ワグマン	大名行列品川通行ノ図	年代不詳	水彩・紙	23.0×31.5

【21 年度の取り組み】

- ・伊藤久三郎（1906-1977）の作品 49 点の一括寄贈を受けた。これらは、シュルレアリスムの影響を受ける以前の作品から絶筆までを含み、伊藤の画業を概観できる貴重な作品群である。
- ・植松眞治（1927-1994）は三浦市出身の画家。当館にすでにまとまったコレクションがあり、今回のご寄贈によってさらに厚みを増すことができた。
- ・小山利枝子氏は「花」展の出品作家。作家のご好意により出品作のうちの 1 点をご寄贈いただいた。
- ・滝波重人氏は第 2 期所蔵品展で特集展示にご協力いただいた。作家のご好意により出品作の一部をご寄贈いただいた。

【22 年度以降の課題】

すぐれた美術作品を収集することは、美術館にとって基本的で最も重要な役割のひとつであるが、市の財政事情から当館では 19 年度以来作品購入費が計上されていない。したがって収集活動は善意の寄贈や寄託に支えられている状態である。

少額でも作品購入費を確保することは今後の継続的な課題といえる。

b. 保存・修復の状況

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21年度の状況】

作品保存の観点から、収蔵施設内の環境調査を年2回実施している。

調査の結果、ごく少数の昆虫類、菌類の存在が確認されたが、作品の保存に支障のあるレベルではない。また、以前の調査で収蔵庫内の空気が酸性に傾いていることが疑われたが、今回の調査では清浄の範囲内であることが確認された。

(環境調査の結果)

	第1回	第2回
期間	6月13日～7月13日	9月7日～10月9日
①昆虫類調査	荷解室で歩行性昆虫が捕獲された。保管庫内でチャタテムシ類が捕獲された。	荷解室で歩行性昆虫が捕獲された。収蔵庫1、収蔵庫2、前室でチャタテムシ類が捕獲された。
②菌類調査	収蔵庫1、前室において、浮遊菌が確認された。	収蔵庫1、収蔵庫2において、浮遊菌が確認された。
③気相調査	酸アルカリ雰囲気清浄であることが確認された。	酸アルカリ雰囲気清浄であることが確認された。木製たんす内が酸性に傾いていることを確認。

寄贈作品（伊藤久三郎など）7点の修復のほか、既存作品などの額装を行った。

(作品修復・額装の実施状況)

内容	作家名	作品名	制作年	作品種別
修復7点	伊藤久三郎	孔雀	1939	油彩画
	伊藤久三郎	堂のある山	1947	油彩画
	伊藤久三郎	遮蔽	1953	油彩画
	伊藤久三郎	〔作品〕	1955	油彩画
	伊藤久三郎	〔無題〕	不詳(1935頃?)	油彩画
	伊藤久三郎	農村風景	1943	油彩画
	伊藤久三郎	〔作品〕	不詳(1955頃?)	油彩画
修復+額装1点	谷内六郎	子どものまつり	1969	油彩画
額装1点	井上長三郎	スエズ	1943	油彩画

修復＋額直し 1 点	長谷川利行	女	1937 頃	油彩画
状態調査	村山槐多	のらくら者	1916	木炭
額直し 4 点	朝井閑右衛門	小田原風景	1930 頃	油彩画
	矢崎千代二	中野美知麿肖像	1933	パステル
	朝井閑右衛門	ロミオとジュリエット	1972 頃	油彩画
	国吉康雄	毛皮の女	1930	油彩画
額装 3 点	三上誠	無題	1957	日本画
	長谷川利行	女	1937 頃	油彩画
	小磯良平	ビルマの婦人	1942 頃	油彩画
額直し 4 点	佐伯祐三	窓のある風景(パリ風景)	1925	油彩画
	原撫松	男二人	1907～08 頃	油彩画
	藤島武二	アッシジ風景	1908～09	油彩画
	朝井閑右衛門	ガラス台鉢	1948	油彩画
額装 1 点	麻生三郎	赤い空と人	1957	油彩画
額直し 1 点	脇田和	中国の少年	1937 頃	油彩画

【21 年度の取り組み】

・気相調査において、今年度からパッシブ・インジケータを使用することにした。これにより、酸性・アルカリ性の雰囲気の数値化することができる。昨年度の調査で収蔵庫内に酸性雰囲気が見られたため、不要なダンボール類の除去などの措置を行ったが、その効果が出ているかどうか、また経年変化による酸性雰囲気の減少を観察することを目的とする。

・寄贈作品のなかには、経年劣化などでそのままでは活用できない状態のものも多い。また、作品そのものの修復でなくても、作品の保全（不適切な固定方法の変更、酸による劣化を防止するための裏板交換など）のため、あるいは展示効果の向上（映りこみ防止のために画面を保護しているガラス板を低反射アクリル板に交換するなど）のために額装を改善することも積極的に行っている。

【22 年度以降の課題】

・環境調査については、継続的に行って経過を観察する。

・軽微なものも含めれば、修復などの措置を必要とする収蔵作品は少なくない。緊急性・費用対効果などから、実施の優先順位を適切に判断し、長期計画を作成して進めていく必要がある。

c. 所蔵作品の貸出状況

【1次評価】

	21年度
評価	A

【21年度の状況】

15件の展覧会に対し、計103点の館外貸出を行った。借用依頼件数の多さは、当館のコレクションへの注目度の高さを証明しているといえる。

(作品貸出一覧)

貸出作品	点数	展覧会名	会場(会期)
萬鐵五郎《ガス灯》 高間惣七《夏草》 木村莊八《畑(雑司が谷)》	3	「日本の表現主義」展 躍動する魂のきらめき	栃木県立美術館(4月26日～6月15日)
			兵庫県立美術館(6月23日～8月16日)
			名古屋市立美術館(8月25日～10月12日)
			岩手県立美術館(10月20日～11月29日)
			松戸市立博物館(12月8日～22年1月24日)
朝井閑右衛門《電線風景》 小出櫓重《前向きの裸女》 今村紫紅《黄石公・張良》	3	日本の美術館名品展	東京都美術館(4月25日～7月5日)
白髪一雄《天敗星活閻羅》 《作品Ⅲ》	2	白髪一雄展 格闘から生まれた絵画	安曇野市豊科近代美術館(4月25日～6月14日)
			尼崎市総合文化センター(7月18日～9月6日)
			横須賀美術館(10月31日～12月27日)
			碧南市藤井達吉現代美術館(22年1月23日～3月14日)
中村彝《少女》	1	4つの物語 コレクションと日本近代美術	川村記念美術館(6月27日～9月23日)
梅原龍三郎《モレー》	1	『白樺』誕生 100年 白樺派の愛した美術	宇都宮美術館(7月26日～9月6日)
			ひろしま美術館(9月13日～10月25日)
			神奈川県立近代美術館(11月3日～12月20日)
谷内六郎《お父さんおかえり》他	78	谷内六郎展 思い出の散歩	高崎市美術館(9月9日～11月8日)
横山大観《陶靖節》 川端龍子《自画像(草露行)》	2	—日本画創造の苦悩と歓喜—大正期、再興院展の輝き	滋賀県立近代美術館(9月12日～10月25日)
			栃木県立美術館(11月1日～12月13日)
児島善三郎《独立美術首	1	三岸好太郎—昭和	北海道立三岸好太郎美術館(9月12日～10月

途(第2の誕生))		洋画史への序章	25日)
中村彝《少女》	1	文化の力ー福島と近代美術	福島県立美術館(10月10日～11月23日)
脇田和《中国の少年》 朝井閑右衛門《蘇州城外月一照》 朝井閑右衛門《蘇州風景》 朝井閑右衛門《蘇州風景》	4	近代の東アジアイメージー日本近代美術はどうアジアを描いてきたか	豊田市美術館(10月10日～12月27日)
鹿子木孟郎《潮の岬焼景》	1	描かれた紀伊山地の霊場と参詣道	和歌山県立近代美術館(11月3日～12月6日)
鍋木清方《江の島 箱根》	1	清方 / Kiyokata ノスタルジア	サントリー美術館(11月18日～22年1月11日)
村山槐多《のらくら者》	1	没後90年 村山槐多展 ガランスの悦楽	渋谷区立松濤美術館(12月1日～22年1月24日)
井上長三郎《スエズ》 長谷川利行《女》	2	柿手春三と池袋モンパルナスの作家たち	奥田元宋・小由女美術館(12月11日～22年1月17日)
小野竹喬《梅の家》 小野竹喬《初夏の海》	2	MOMAS コレクション	埼玉県立近代美術館(22年1月30日～4月18日)

以上15件・103点

【21年度の取り組み】

- ・作品の貸出に際しては、事務手続きのほか、集荷・返却時の作品点検を行っている。
- ・高崎市美術館の谷内六郎展への貸出に際しては、事前に額装作業をおこなった。

【22年度以降の課題】

・当館の所蔵品への貸出依頼は月に1件以上あり、また、谷内六郎作品のように多数の額装作業が発生するケースもあるため、相当の負担がある。しかし、他の館であるテーマに則して展示されることで、所蔵品の本来の、あるいは意外な魅力が発見されることがあり、また、遠方の美術ファンに横須賀美術館を知っていただくきっかけとなることもある。今後も、借用依頼に対しては、作品状態などに配慮したうえで、できるだけ対応していきたい。

⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理

【評価指標】

- ・来館者の行動パターンに応じた無駄のない開館日・開館時間が設定されている。
- ・適正な予算要求・予算執行により、事業の実施に少ない経費で最大の効果を生み出している。
- ・無駄のない施設の維持管理を行っている。

a. 開館日

【1次評価】

	21年度
評価	C

【21年度の状況】

- ・開館日：年間347日（休館日 毎月第一月曜日：12日、年末年始：6日）
- ・月1日の休館日を念頭に、機器メンテナンス等の保守点検業務及び展覧会等事業の作業計画を立て、実施している。
- ・利用者の利便性を考慮し、いつでも利用できるように休館日を極力少なくした条例としているため、企画展と所蔵品展の開催時期をずらしている。その結果、どちらか一方しか見られない日があり、逆効果となっている。
- ・展示替え作業日でも開館しているため、鑑賞にふさわしい環境を提供できない日がある。

【21年度の取り組み】

- ・鑑賞しやすい静かな環境を提供するため、展示替え期間中の作業音の激しいと考えられる日を臨時休館日とすることについて、検討を開始した。

【22年度以降の課題】

- ・展示作業日を臨時休館日とすることについて、引き続き作業工程や周知方法等を検討し、実施したいと考える。

b. 開館時間

【1次評価】

	21 年度
評価	C

【21 年度の状況】

開館時間：10 時から 18 時（10 月～5 月 ただし 4/29～5/5 を除く）

10 時から 19 時（6 月～9 月 ただし土曜日を除く）

10 時から 20 時（6 月～9 月の土曜日と 4/29～5/5）

- ・季節に合わせた開館時間の延長を、開館当初から行っている。
- ・6～9 月は開館時間を延長しているが、観覧者が極めて少ない時間帯が見られる。また 10～5 月のうち冬期は、17 時以降の観覧者は極めて少ない。

＊ゴールデンウィーク及び 6～9 月における 19 時以降の観覧者数の割合

0.66%（245/36,906 人）

＊10～3 月における 17 時以降の観覧者数の割合

2.38%（1,192/49,905 人）

【21 年度の取り組み】

- ・夕方からの観覧者数の減少の状況を調査するため、ゴールデンウィークと 6 月から 9 月末までの間、18 時以降の観覧者数調査を行った。10 月からは時間帯を 16 時以降として引き続き調査を行った。
- ・秋冬の観覧者増を図るため、16 時以降の観覧料を半額にする「トワイライト割引を」11/1～3/31 まで試行として実施した。

【22 年度以降の課題】

- ・観覧者の行動パターンと経費削減効果のバランスをよく分析し、観覧の機会減少とならないような実施方法を検討する必要がある。

c. 財務状況

【1次評価】

	21 年度
評価	B

【21年度の状況】

(美術館費 (予算決算) の推移)

単位：千円

		H21		H20		H19	
		当初予算	決算(見込)	当初予算	決算	当初予算	決算
歳入合計		69,694	64,605	70,239	58,190	65,882	104,850
	観覧料	45,745	36,018	47,539	36,660	41,131	73,105
	駐車場使用料	10,290	11,762	13,400	9,991	12,675	13,289
	その他(図録販売等)	13,659	16,825	9,300	11,539	12,076	18,456
歳出合計		476,135	427,601	494,923	452,368	498,152	457,121
	給与費	130,827	122,498	133,615	126,698	129,229	131,796
	運営事業費	119,201	110,050	123,570	112,141	121,126	115,170
	展覧会事業	84,883	80,054	87,189	81,743	87,982	86,813
	教育普及事業	8,915	8,294	8,888	7,024	8,074	5,260
	美術品収集管理事業	7,151	6,778	7,002	6,354	7,315	5,596
	運営事業	18,252	14,924	20,491	17,020	12,013	12,825
	開館記念イベント事業	-	-	-	-	5,742	4,676
	管理事業費	226,107	195,053	237,738	213,529	247,797	210,155

(平成 21 年度決算見込みの概要)

歳入

単位：千円

項目	決算(見込)額	説明
美術館歳入 計	64,605	
1 観覧料収入	36,018	展覧会観覧料収入 観覧者数 98,738 人 うち有料観覧者数 63,452 人
2 使用料収入	11,762	駐車場使用料 利用台数 33,484 台 うち有料利用台数 21,360 台
3 雑入	16,825	上記以外の収入 【主なもの】 展覧会図録等売払い代 7,773 千円、レストラン等光熱水費 2,387 千円 白髪一雄展開催負担金還付金 5,907 千円

歳出

単位：千円

項目	決算(見込)額	説明
美術館費 計	427,601	
1 給与費	122,498	市職員、非常勤職員の報酬、手当等 一般職 14 人(うち再任用 2 人)、各種委員 8 人、非常勤職員 8 人
2 美術館運営事業費	110,050	
(1) 展覧会事業	80,054	企画展：年間6本、所蔵品展及び谷内六郎館：年4回展示替え 【主なもの】 展覧会開催負担金 25,370 千円、会場施工等委託料 41,937 千円、 広告料 4,680 千円、作品借用謝礼等 3,128 千円
(2) 教育普及事業	8,294	教育普及事業の実施(ワークショップ 31 回、講演会 14 回、映画上映会 3 回、 ボランティアイベント実施活動等) 【主なもの】 ワークショップ実施等委託料 5,765 千円、講演会講師謝礼 953 千円
(3) 収集管理保管事業	6,778	所蔵作品の修復、額装、環境調査、寄贈に係る運搬等 【主なもの】 所蔵作品修復額装等委託料 5,799 千円
(4) 運営事業	14,924	美術館全体の運営にかかる経費、イベントの実施(コンサート1回、クリスマス・バレンタインイベント各1回)、図書室の運営、美術館ニュース等製作 【主なもの】 展覧会スケジュール等製作委託料 4,009 千円、コレクション 150 等印刷費 3,458 千円、図書室臨時職員賃金 3,213 千円
3 美術館管理事業費	195,053	施設の維持管理にかかる経費 【主なもの】 受付・展示監視等業務委託 49,800 千円、光熱水費 42,890 千円、 設備機器等保守管理委託料 43,994 千円、警備委託料 20,535 千円

【21 年度の取り組み】

1. 歳入

- ・観覧者数を増加させ観覧料収入の増を図るため、魅力的な事業の実施及び適切な広報活動を行った。

2. 歳出

- ・経費の執行にあたり各種契約行為において、入札等競争性を持たせることで経費削減を図った。
- ・広報 PR を積極的に行うため、新たな広報手段として展覧会の新聞広告を、節減した経費から捻出し周知を図った。

- ・維持管理

- ・清掃業務の仕様を見直し前年比約 1,883 千円削減することができた。
- ・各種消耗品費の節減に努め、前年比約 1,506 千円削減することができた。

【22 年度の課題】

- ・観覧料収入を上げるには、利用者増が必須であり、美術館としての魅力（＝展覧会の魅力）と建築や景観・環境の魅力を発展・維持するとともに、より多くの人に知らせることが第一と考える。それには広報を充実させることが求められる。適正な経費で広報を充実させる。
- ・歳出予算は毎年度前年よりマイナスとなっているが、市民サービスを低下させないよう事業実施にあたり更なる工夫に取り組まなければならない。

*

評価委員会による二次評価

①美術を通じた交流の促進

a.年間観覧者数

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	目標にわずかに達していないものの、各地の美術館等が集客に苦慮している中でよく健闘している。広報宣伝等一定の努力が認められるが、さらなる努力を望む。

・目標をわずかに達成していないものの、全国的に観光地やレジャー施設の入込み人員が減少している中健闘しているといえる。[金子]

・企画展の魅力度アップや宣伝広報の強化により目標は達成可能と思われる。[金子]

・3～4月桜、5月GW、7～8月夏休み等、季節モチベーションの活用強化 [菊池]

・目標に達成できなかった理由の一つに11月以降の新型インフルエンザの流行があげられているが、例年11月から12月にかけて来館者が減少している。その期と横須賀美術館の関係を探る必要性あり。また、前年と比べ1月は伸びている。その理由として「児童生徒造形作品展」の会期延長があるが、市民に愛される美術館の一つの方向性として、観覧者の少ないシーズンにこの種の作品展を通して市民の関心を促すことは必要に思える。[小林]

・新型インフルエンザの影響受けながらも健闘 [菊池]

・駅等にポスターを掲示する等の努力をしているのは、評価される。[佐倉]

・リピーターを増やす（横須賀市民の）対策を工夫しているが、いま一層の努力を市民（生徒、学童、児童）等の絵画展示、募集イベントの一工夫がほしい。[佐倉]

・まだじゅうぶん努力、改善の余地があると判断した「C」である。[杉戸]

・なかなか健闘していると思う。[水島]

・さらに特色ある企画展を望む。[水島]

・市美術館だからこその企画展もあるのではないかと。[水島]

・広範囲に変化のある企画を望む。版画、フォークロア、工芸なども。[水島]

・指標を満たしていない原因の分析をもっと丁寧に行ったほうがよい。ただし、不況下の数字としてはよく健闘していると評価できる。[山梨]

b.年間来館者数

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	一定の努力が認められる。美術館としての機能だけではなく、観音崎という立地、施設を含めた景観などさまざまな要素を持ったコミュニケーションの場所として魅力を高めてほしい。

- ・来館者は観覧者の2倍以上来ていることからまだ観覧者を上乘せする可能性は高い。[金子]
- ・庭園や屋上なども美術館の魅力の一つであり、来館者増加のためにPRすべきである。[金子]
- ・美術と音のコラボなど野外コンサートの企画 [菊池]
- ・美術館の枠を超えた企画 [菊池]
- ・来館者の増加は観覧者の増加に結びつく要因でもあるので、レストランのような付属施設は、質の高いサービス、ホスピタリティ、適正価格での美味しい食事等の配慮も必要になる。また、館内の図書室を美術図書室として一層の特化をはかり、合わせてPRをする。特に美術館の立地性から考えるとレストランや図書室のような付属施設を含めたトータルな美術館の魅力づくりが大切である。[小林]
- ・a. (年間観覧者数) もそうだが、人数だけでCをつけるのは余りがすすまない。募集努力等についても評価したいのでC+とした。[佐倉]
- ・観音崎地区のイラストマップ等、図はいいが、中高年(リタイアしている人達)にとっては字が小さくて読めないのが惜しい。シニアを巻き込む工夫を考えて欲しい。[佐倉]
- ・まだじゅうぶん努力、改善の余地があると判断した「C」である。[杉戸]
- ・観光スポットとして市に貢献しているように思う。[水島]
- ・ワークショップ、ボランティア企画等が充実していることも要因か [水島]
- ・市観光課と連携して広範囲なアートイベントを行ってもらいたい。[水島]
- ・評価項目として別に「やすらぎの場の提供」が掲げられていることを考慮すれば、レストランのみの利用も計算に入れるべきである。[山梨]

c.市民率

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	利用者の中の市民の率ではなく、絶対数を向上させることが重要。市民のニーズを取り入れながら、長い時間をかけて普及をはかるべきである。

- ・市民の利用は、もっと増加すべきと思うが、観光地に立地する特性から、市外の人でも楽しめる展示・企画も注力する必要がある。[金子]
- ・横須賀にとっての美術館、その意味付けによって、横須賀市民観覧者の適正率が割り出されるのではないかと。22年度以降の課題が記載されているが、再度その種の課題の検討が望まれる。[小林]
- ・市民が、3～4割くらいが望ましい。[佐倉]
- ・市民には、興味を持ってもらい何度でも足を運びたいよう一段の努力を願いたい。[佐倉]
- ・市政に支えられているからこそその美術館であるならば、市民の利用拡大は重要な課題である。[杉戸]
- ・アンケートそのものにデータを取るだけの収集があるのか？ [水島]

- ・地域とつながった特色のある企画も参考に。例えば、金沢 21 世紀美術館など…。現代アートを通じて地域とつながる。[水島]
- ・市外から注目されることにより、市民の美術、芸術への関心を高め、文化向上につなげる。質の高い企画展と美術館運営を求める。[水島]
- ・微妙で曖昧な評価項目なので、将来的には a. (年間観覧者数) ないし b. (年間来館者数) の但し書のような位置に記述したらどうであろうか。[山梨]

d.パブリシティの状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	広報の手段のひとつとして、パブリシティの利用がよくはかられている。利用者数が大きく落ち込むことなく、健闘しているのは、その成果であると考えられる。

- ・他に例のない上質な景観を有する美術館であるから、テレビのロケや雑誌撮影場所に協力、タイアップするなどし、認知率を向上してほしい。[金子]
- ・パブリシティは最重要であり、地元出身タレントなど有効活用 [菊池]
- ・専門誌にこだわらず幅広いフィールドで露出度を向上 [菊池]
- ・パブリシティに対する働きかけについては努力の跡がみられる。テレビや全国紙の効果が大きいので、一層組織的な訴求活動が望まれる。ホームページは比較的に見やすくできている。「22 年度以降の課題」とあるように、美術情報サイトやブログといった、インターネット上の戦略が必要である。[小林]
- ・朝の NHK ラジオ等で地方の行事等の話題に時間を割いていることがある。横須賀からのレポートも時折あるので、取り上げてもらえるように工夫を願いたい。[佐倉]
- ・展示作品で注目を集めるのはもちろん大切だが、他にない景観との相まったポイントも大いに宣伝したい。[佐倉]
- ・美術館や美術になじみのある人だけでなく、積極的にターゲットを広げることが大切。[杉戸]
- ・一般の人々に開かれた場として認識されるよう努力。[杉戸]
- ・テレビ、専門誌での取り扱いが何より効果的。[水島]
- ・横須賀美術館は、市外ではかなり好印象である。[水島]
- ・まずは美術館の売りをアピール、市民が誇れる施設であることを市民にアピールしてほしい。[水島]
- ・広報予算が限定されている範囲で高い成果を挙げている。今後はホームページ等、電子媒体による情報発信にも努められたい。[山梨]

e.アクセス満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	公共交通機関を利用したアクセスは自家用車利用に比べて不便であり、工夫が必要である。来館者の過半数を占める自家用車利用者に対しては、駐車料金負担の軽減を検討してほしい。そうすることで、車で来てゆっくり過ごせる場所とのイメージ戦略も打ち出しうる。

- ・馬堀海岸 IC 開通によりアクセスは格段に向上した。[金子]
- ・横須賀市内の観光施設として市の中心部からの案内誘導の強化を望む。[金子]
- ・評価内容から”満足度”ではなく、”認知度”のほうが理解しやすい[菊池]
- ・郊外型美術館だけに、馬堀海岸インターチェンジの開設の意味は大きい。その結果、自家用車利用者の増加に結びついているようであるので、観覧者に対する駐車料金の見直しも一つの手立になるのではないだろうか。青い海と美術館、そうした横須賀美術館の自家用車での来館の魅力を一つの目玉にする。[小林]
- ・横浜から直行するコースや軍港めぐりとの協同等、横須賀観光に組み込む。[佐倉]
- ・はとバス等、日帰り旅行の計画の策定を業者にアピールする。[佐倉]
- ・車がないと不便なので工夫が必要である。[佐倉]
- ・まだ改善の余地があると判断できる。[杉戸]
- ・車の利用者にとってはアクセスはかなり良い。(インターができて)観光をかねた市外来館者には良か？[水島]
- ・高速道路割引が終わると、市外来館者にも影響があると予測される。[水島]
- ・公共交通機関はかなりきびしい。年齢的なばらつきも予測される。[水島]

②質の高い展覧会の開催

a.企画展集客率

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	企画展は集客の要であり、幅広い興味に応じるよう考慮されている。アンケート結果は目標にわずかに達していないが、一定の評価に値する。

- ・わずかに達成しなかったが、企画展が集客の要であるため、今後も充実を望む。[金子]
- ・パブリシティの効果が出ているように思う [菊池]
- ・評価指標を 60%と設定しているので、個人的には2次評価を C と定めたが、アンケートの実施方法に依拠するので、一概には言えない部分がある。企画展の意義は大きく、観覧者の増加をはかる要因であることは確かである。そのためにも、横須賀美術館の位置づけを検証しつつ、企画の取り組みが必要になる。[小林]
- ・企画展の内容を季節に合わせる。[佐倉]
- ・対象を絞った企画を計画してみる。[佐倉]
- ・目玉作品の展示を年一回くらい開催したい。(国宝等の展示) [佐倉]
- ・達成可能な数値を 60%と推定し、指標としたことが疑問。[杉戸]
- ・企画展の内容の幅広さ(多様さ)は、多くの来館者の興味に対応し、よく考慮されている。[杉戸]
- ・パブリシティが弱く、集客しきれなかったのか? [水島]
- ・テレビ、専門誌でのあつかい、他美術館でのポスター掲示など、美術に興味を持っている人への働きかけも弱いと思う。[水島]
- ・目標が 60%であるから、59.8%は B 評価としてよい。[山梨]

b.企画展の満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	満足度の水準は高い。専門的で難解な内容であるほど、誰もがわかりやすく、興味をもてるような工夫をしてほしい。メジャーなものでも、地道な調査研究に裏づけられた企画展には、好感が持てる。

- ・全般的に満足度の高い企画展であった。[金子]
- ・鑑賞するポイントの解説を強化して欲しい。[金子]
- ・評価指標を 70%と設定しているので、個人的には2次評価を B としたが、アンケートの実施方法に依拠するので、一概には言えない部分がある。しかし、分析は周到に行われ

ている。今後とも、「わかりやすい展示」、「見やすい展示」が課題になる。[小林]

・展示を見せていただき、3時間くらいかかるのと、1時間足らずで見終わってしまうものがある。観客の動向をみているとよくわかるので、足を止めたくなるような企画展を考えてもらいたい。[佐倉]

・クレー展、白髪一雄展での満足度の低さが気に掛かった。一般的に難解、専門性の高い企画であればあるほど、より誰もが興味をもてるような提示の工夫を。[杉戸]

・コドモノクニ展はとても満足した。地味だが市の美術館としてきめ細やかな題材だったのではないかと。[水島]

・設定した指標の数値ひとつに集約するのではなく、事業報告書に記述された各展覧会についての記述内容をまとめた形で指標をつくるよう工夫されたい。評価報告書の「21年度の取り組み」中にクレー展、白髪展、ワンダーシニア展への言及も欲しい。[山梨]

c.所蔵品展の満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	展示内容・方法に、飽きられないための工夫がみられる。アンケート結果は目標にわずかに達していないが、一定の評価に値する。

・飽きのこないよう展示品の入れ替え、新たなテーマの導入などを実施する。[金子]

・評価指標を60%としているが、その根拠は20、21年度から判断したものなので、指数設定の検討が必要になるように思われる。前年度を上回ると言う視点はそれなりに必要であるが、落ち込んでいる指数を引き上げて対策を講じ改善をはからないと、魅力ある美術館にならないのではないだろうか。[小林]

・工夫の跡が見える。[佐倉]

・印象派展等、派別での展示（展示エリアで分ける等の工夫を）[佐倉]

・作家の画風の変化が、わかるような展示型の工夫を。[佐倉]

・達成可能な数値を60%と推定し、指標としたことが疑問。他の2つの展示（企画展及び谷内六郎展）が70%を指標としているのに対し、同様の展示満足度であるにもかかわらず、60%を指標とするのは疑問。[杉戸]

・努力の程は感じられる。[水島]

・マンネリになりがちなのはどこも同じだが、以前、展示の変化で、とても見やすさを感じた。作品の流れが良かったのかもしれない。[水島]

・目標が60%であるから、59.1%はB評価としてよい。[山梨]

・設定した指標の数値ひとつに集約するのではなく、事業報告書に記述された各展覧会についての記述内容をまとめた形で指標をつくるよう工夫されたい。[山梨]

d.谷内六郎展の満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	満足度は高い水準を保っている。横須賀美術館の特色のひとつとして、質の高い展示を維持するよう期待する。

- ・美術館で人気の高い（中心的な）作品であるため、常に展示内容等配慮し、質の高い展示を維持するよう期待する。[金子]
- ・谷内六郎展の評価指標は 70%とあり高い指標をクリアしている。谷内六郎が横須賀美術館の一つの目玉になっていることを勘案すると、現在取沙汰されている問題に対し行政として速やかな解決策を講じないと美術館の評価にも影響しかねないのではないのか。[小林]
- ・すべてが同一作家の作品であるため、作家の制作当時の心境も反映されていて、その時代が作品を通じて見える点が評価されていると思う。[佐倉]
- ・所蔵品展に比べ、安定した数値であるとはいえ、谷内六郎館をとりまく、周辺事情を考えると、今後が心配である。（はたして、今までの展示のクオリティを維持できるのか。）[杉戸]
- ・昭和ブームである。大いに活用してほしい。[水島]
- ・作品数が多く、あきがこない。レトロ感がホッとする。[水島]
- ・館を別にしてひとつに集めているところもよいと思う。[水島]
- ・著作権者との関係修復が望まれる。[山梨]

e.リピート率

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	両義的であり、評価の対象にならない。項目自体について再検討を要する。

- ・リピーターの確保は、観客数目標達成のためにも重要であり、リピーターの意見に耳を傾けるべきである。[金子]
- ・着実に目標値に近づいている [菊池]
- ・年間パスポートの魅力向上とPR戦略 [菊池]
- ・この評価指標 40%以上は妥当な指標なのか。市内の中心部からも離れた郊外型の美術館の現状分析が必要である。[小林]
- ・一部の人のみに奉仕するものに陥ってはならないが、展示が変わるたびに行きたくなくなるようにすることも大切だ。[佐倉]
- ・（年間パスポート普及について、広く一般に認識されていないのではないか。）[杉戸]
- ・美術啓蒙はもちろんだが、文化の発信。新しさ、楽しさを発見できる美術展、文化イベントも行える美術館としてより自由に展開してほしい。[水島]

・この項目も数値の意味するところが両義的であるので、評価対象としてなじまないと思われる。[山梨]

③やすらぎの場の提供

a.館内アメニティ満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	A	高い評価に値する。

- ・館内は明るく、吹き抜けが多く開放的である [金子]
- ・トイレや廊下などのスペースも清潔であり好感がもてる。[金子]
- ・アメニティの要であるトイレの快適性の向上に努められたい [菊池]
- ・評価指標 80 パーセントと高いが、個人としても館内のアメニティの満足度が高いことを実感する。[小林]
- ・展示場の中に、椅子、ソファ等座って、じっくり鑑賞できるようにした方がいい。[佐倉]
- ・掃除は、行き届いていて気持ちがいい。[佐倉]
- ・まだ改善の余地があると判断できる。[杉戸]
- ・新しさが満足度につながっている。[水島]
- ・トイレ、公共の場の清掃には特に心がけ、こまやかに気を使っていただきたい。きたならしい印象は最悪。[水島]
- ・快適性の項目で比較的数字の低いものについて、その原因と対策をさらに検討されるのが望ましい。全体としては高い評価に値する。[山梨]

b.スタッフ対応の満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	B	前年度の取り組みによって、著しい改善がみられる。

- ・観覧者は”お客様”という気持ちをスタッフ全員に浸透させる。スタッフの応待が良ければリピートにつながっていく。[金子]
- ・指標に達していないが（－１％）、前年からの改善が著しい [菊池]
- ・個人的な評価であるが、一観覧者として訪れた限りの印象では、なかなか対応が行渡っている。更にホスピタリティ・マインドの育成をはかる組織造りが望まれる。[小林]
- ・他の美術館等と比較しても、遜色はない。[佐倉]
- ・観客の態度のチェックは必要だが、優しい心配りも必要である。[佐倉]
- ・展示監視→「警戒して見張る」ではなく、「看視」→「気をつけて見る」運営スタッフの対応は、美術館に対するイメージに直接つながるものとしてとらえ、今後とも研修を深め

ていってほしい。[杉戸]

- ・評価指標 80%に対し、わずか1%足りていないことで「C」とするのは、少しきびしいような気がする。[杉戸]

- ・取りたてて印象はないが、美術館だからといって表情を持たないほうがよいということはないと思う。接客という観点から笑顔での対応を希望する。[水島]

- ・79%はほぼBとしてよい。[山梨]

- ・「取り組み」に記述されている諸事項については、今後も継続されたい。[山梨]

c.ミュージアムショップの満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	前年度に比べ満足度が低下している。早急に問題の所在をつきとめ、運営者とミュージアムショップ事業者が一体となって改善に取り組むべきである。

- ・面積は狭いものの、開放的で居心地のよいショップであると思う。[金子]

- ・他の美術館で評価の高いショップを参考にしたらどうか [金子]

- ・オリジナル商品が少ない [金子]

- ・前年から悪化。原因を分析し、改善策を講じたい [菊池]

- ・評価指標 70%の設定はともかく、前年度より満足度は落ち込んでいる。アンケートの分析もさることながら、ショップ関係者の顧客ニーズの木目細かな分析が求められる。付属施設の満足度も観覧者の増加要因、リピーターの増員につながる。[小林]

- ・横須賀美術館しかないグッズ等の作成、谷内六郎の展示作品のクリアフォルダー、横須賀のキャラクター、スカリンの美術館バージョンのストラップ等のオリジナル商品でショップの売り上げも上がり、満足度もアップすると思う。[佐倉]

- ・20年度に比べ21年度、ミュージアムショップの満足度が大幅に落ち込んでいることは、重くとらえていくべきである。[杉戸]

- ・初回の来館者には「それなりに」なのではないか？ [水島]

- ・再来者にとっては多少目新しさに欠ける。[水島]

- ・展覧会に関連した期間限定商品のさらなる充実を。[水島]

d.レストランの満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	運営者とレストラン事業者が一体となって改善に取り組むべきである。軽食や喫茶のニーズに応える方法についても検討すること。

- ・展示とのコラボレーションなどを充実し、さらに人気度を高めてほしい。[金子]

- ・60%台が常態化している。緊急な対応を業者にも自覚を促し、検討 [菊池]
- ・重要な付属施設なので、21年度の取り組みを更に深化させ対応をはかる。[小林]
- ・メニューが少ないのと、やや内容に比べて価格が高いが、景色を織り込めば納得できる。
[佐倉]
- ・予約制なのか、フリーなのかははっきりしないのが、満足度を下げていると思う。[佐倉]
- ・レストラン自体にさほど大きな問題があるとは思えない。[杉戸]
- ・美術館周辺に「気軽に」食事ができる場所が少ない。すべての世代が心地よく過ごせる工夫を。[杉戸]
- ・昼食時のメニューが変りばえがないのでリピーターには魅力がない。もう少し軽い食事やお茶に利用したい。[水島]
- ・レストラン自体を数年ごとに見直し、独創的でやる気のある料理人に場を開くのも良いのではないか。料理も芸術の場。[水島]

e.図書室の満足度

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	親しみやすい図書室を目指してほしい。利用者数はすでにかなり多く、この点は評価できる。

- ・場所がわかりにくい。[金子]
- ・図書室の利用方法が一般に認知されていないのではないか。[金子]
- ・H19の5, 8, 9月の利用が多い、何か工夫があるか調査 [菊池]
- ・教育機関の利用促進策の検討 [菊池]
- ・故匠秀夫氏の蔵書を軸にかなり整備された図書室になっているようだが、更に美術館の図書室の機能を特化させる。付属図書室としての特徴をPRする。[小林]
- ・入館者が、図書室の存在を知らないのではないか。[佐倉]
- ・企画展等に対応した図書の案内、一工夫あるとより、相乗効果を期待できると思う。[佐倉]
- ・図書館のみの利用ならば無料、であることは認知されているのだろうか。[杉戸]
- ・美術館の図書館というと、専門性の高いイメージが強く、気軽に、絵本を読むことができる、ということが、一般に、認識されていないのではないか。[杉戸]
- ・図書室を利用するという環境条件が整っていない。来館者は多く車利用であるため、図書を利用する余裕がない。駐車時間の問題がある。[水島]
- ・2階、ボランティア室となっているスペースが気になる。図書や資料の閲覧などに使えないのか? [水島]
- ・利用者数も満足度のうちに加味できる工夫が欲しい。また図書室の性格づけを広報する必要がある。利用者の絶対数が少ないとあるが、年間1万人以上の数はひじょうに多いと判断される。[山梨]

f.周辺諸施設との連携

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	評価なし	観音崎地域の振興にとって、美術館の存在はそれだけでじゅうぶんな役割を果たしており、あらためて評価する必要はない。

- ・周辺施設とのPR強化、相互優待の実施など地域全体での連携を図る。[金子]
- ・観音崎の地域拠点としておおむね役割を果たしている [菊池]
- ・歴史のある灯台、美しい海岸線、そのロケーションと美術館の結びつきを考える。[小林]
- ・“横須賀を楽しもう！”といったイベントを、他の機関や企業と連携して実施拡充したい。
[佐倉]
- ・観光地としてのアピールと連携が薄く感じる。[杉戸]
- ・県立観音崎公園の中心に位置していることを考えれば、利用者がゆっくりと滞在し、公園利用、散歩に時間をとれるような、駐車場の料金設定を県と交渉願う。[水島]
- ・この項目は評価のつけようがない。むしろ「取り組み」に記されているような連携のための事業をどれだけやったかに評価の視点を移すべき。[山梨]

④知的好奇心の育成と充足

a.企画展、所蔵品展、谷内六郎展の開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	幅広い層のニーズに応えるよう、バランスがよく考慮されている。知的な遊びの場としての美術館のあり方を今後も追求してほしい。

- ・横須賀ならではの地域性を発揮した企画展示を希望する。[金子]
- ・努力の跡がみられる。[小林]
- ・企画展等で、触れられる作品があるのはおもしろかった。子供たちはもちろん、大人も興味を持っている様子が見えた。[佐倉]
- ・谷内六郎年次別展示に合わせたイベントやグッズを計画する等、内部連携を工夫すると面白いのではないかな。[佐倉]
- ・幅広い層に訴えるためのバランスはよく考慮されている。積極的に来館者の興味を喚起し、知的な遊びに誘う場としての美術館のあり方を、今後とも検討して欲しい。[杉戸]
- ・個人的には「コドモノクニ」がたいへんよかった。地味でも、意義のある企画。媒体でもっと取り上げてほしい。[水島]
- ・この項目について客観的判断の基準が不足している [山梨]

b.講演会・アーティストトークなどの開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	モノの提示にとどまらず、人と人とのコミュニケーションの機会を提供しており、美術館における「学び」を多角的なものとするうえで重要である。参加者の反応を聴取する仕組みをつくるべきである。

- ・美術のみにこだわらず、関連付けた意外性をテーマに設定したイベント [菊池]
- ・努力の跡が見られる。美術館の位置づけとの検証も踏まえて、一層の充実をはかる。[小林]
- ・頑張っていると思う。これからもしっかり続けてほしい。[佐倉]
- ・島田館長による陶芸(皿)制作等の苦労話や自習体験コースも年に数回実施してほしい。[佐倉]
- ・ヒトとモノ(展示物)のコミュニケーションのみならず、ヒトとヒトとのコミュニケーションをはかっている企画は素晴らしい。出会いを設定するという美術館の取り組みは、

来館者の学びをサポートする上で、重要。[杉戸]

- ・観覧者の反応・感想は？→今後の参考として集約すべきである。[杉戸]
- ・充実しているほうだと思う。[水島]
- ・聴講したいと思わせる企画が多くある。[水島]

c.一般向けワークショップなどの開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
A	A	横須賀美術館の特色がよくあらわれた取り組みとして高く評価できる。主催者と参加者がともに学びあえる機会として、継続的に取り組んでほしい。

- ・美術館の特色としても更なる充実をはかる。[小林]
- ・ワークショップは、頑張っているこれからもユニークなものに挑戦して「横須賀美術館はおもしろい。」というようなイメージが定着したらいいと思う。[佐倉]
- ・ワークショップは横須賀美術館の様々な取り組みの中で、最も特色があると思える。美術館側としても参加者とともに学びあえる、良い機会と考えられる。いずれにせよ、人と人とのコミュニケーションは、大切にしていってほしい。[杉戸]
- ・かなりおもしろそうだといつも感じている。機会があれば参加したいと思っている。[水島]
- ・④－b. がB、④－c. がAと一次評価にあるが、その差の理由が判らない。[山梨]

d.学芸員によるギャラリートークの開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	観覧者の理解を深めるうえで重要だが、あまり認知されていない。積極的に周知をはかるべきである。

- ・美術館の魅力を喚起する上にも学芸員のギャラリートークは必要である。[小林]
- ・ギャラリートークの出前講座を実施する。参加者に、美術館の割引券を配布する等で美術館への吸引力を増強したい。[佐倉]
- ・ギャラリートークのことをあまりわかっていない。いつどのように行われているのか、当日でもわかりやすくしてほしい。[水島]
- ・この項にも目標回数など客観的判断の基準が欲しい。[山梨]

e.学芸員による論文等の充実

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	評価に値する論考がもっと書かれるよう期待する。

・美術館の現状を鑑みると学芸員はかなり現場の仕事に追われているようであるが、そうした状況の中では業績を積み上げているように見受けられる。一次評価は C となっているが、自らを研鑽する上での評価と考える。その姿勢は大切なことで、論文等で業績を高める努力がない学芸員が増加するようでは、美術館の先行きは問われる。質の高い学芸員の下で、良質の美術館が育てられていく。[小林]

・新聞にも掲載され、横須賀美術館のイメージを高めるようにぜひ頑張ってもらいたい。[佐倉]

・美術館活動全体の根幹をなす調査研究が具体的な成果として表われる大切な事項のひとつであるので、図録のなかに学芸員たちがまとめた論考をもっと書くことが望まれる。
[山梨]

⑤福祉活動の展開

a.福祉とアートをテーマとした講演会の開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	重要な取り組みであり、継続して実施してほしい。

- ・専門研究機関との連携によるプログラムの企画 [菊池]
- ・大切な課題であり今後も取り組みが必要である。[小林]
- ・これからも積極的に推進してほしい。[佐倉]
- ・難しい課題に積極的に取り組もうとしている点においては、評価されるべきであり、今後とも継続的に行ってほしい。[杉戸]
- ・⑤-a.b.c.d.の4項目はひとつにまとめ、事業報告のなかで内容を記述する形にしたほうがよいのでは。[山梨]。

b.障害者を対象としたワークショップの開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
A	A	参加者の好評を得ており、横須賀美術館の特色として高く評価できる。惰性に陥ることなく、きめ細かな配慮を保ちながら継続してほしい。

- ・ワークショップは好評のようであり、継続を希望する。[金子]
- ・専門研究機関との連携によるプログラムの企画 [菊池]
- ・一層の取り組みが求められる。[小林]
- ・年12回開催ということであるが、一回の参加者は？隔月にしてもよいのではないか。[佐倉]
- ・すべての人に学びの場を提供するのは大切なことであり、横須賀美術館では努力されている。[杉戸]
- ・感想が好評であったという点では、評価は「A」として妥当である。[杉戸]
- ・参加したことがないが、時間に余裕があればボランティアとして参加したいと思う。[水島]
- ・ワークショップの作品を見ると評価できる。[水島]

c.障害者施設、高齢者施設などの受け入れ

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	すべての人が楽しめる美術館であるために必要な配慮を継続して行ってほしい。さらに積極的な取り組みが求められる。

- ・一層の取り組みが求められる。[小林]
- ・障害者・高齢者に美術への関心を持たせるよい施策である。[佐倉]
- ・すべての人が心を豊かにできるような場の提供であってほしい。[杉戸]

d.託児サービスの実施

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	良いサービスだが、さらに利用を拡大する工夫が必要である。

- ・利用者としてはたいへんありがたいサービスと思われる。[金子]
- ・コストはかかるが継続して欲しい。[金子]
- ・一層の充実が求められる。[小林]
- ・急激にニーズが増えるとは思わないが、大切なサービスなので地道に実施して欲しい。[佐倉]
- ・託児サービスの実施は評価する。[水島]
- ・じゅうぶんに利用されているのか?というと少々疑問 [水島]

⑥学校との連携

a.児童生徒造形作品展の開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	児童生徒や家族への波及効果が高く、横須賀美術館の特色として評価できる。 満足度の高さは他の企画展との性格の違いを示している。

- ・学校との連携は美術への関心を高める他、親も含め、美術館へ興味を持ってもらえるため、是非強化して欲しい。[金子]
- ・満足度、集客、内容とも評価されるレベル [菊池]
- ・美術館は心の癒しであり、心の福祉でもあるので、幼児・児童段階からの利用が求められる。イギリスでは美術館がない都市は都市と言わない程、都市には美術館があり、子どもたちが日常的に関わりを有している。[小林]
- ・児童・生徒も美術館イベントに参加できるような場づくりに、これからも継続して努力してもらいたい。[佐倉]
- ・児童・生徒の作品展はぜひ続けてほしい。[佐倉]
- ・神奈川県内の他地区ではあまり例をみない取り組みであり、特色あるものである。美術館側の理解と協力については、教員の立場として、とても感謝している。この思い切った取り組みに関しては、じゅうぶんな評価に値すると考える。[杉戸]
- ・この満足度は、他の企画展の満足度と性質が違うことを明記すべきである。[山梨]

b.小学校美術館鑑賞会の受け入れ

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	児童の段階で本格的な美術作品に触れることはとても意義が深い。学校教育現場との相互理解をはかりつつ、継続的に実施してもらいたい。

- ・学校との連携は美術への関心を高める他、親も含め、美術館へ興味を持ってもらえるため、是非強化して欲しい。[金子]
- ・美術館は心の癒しであり、心の福祉でもあるので、幼児・児童段階からの利用が求められる。イギリスでは美術館がない都市は都市と言わない程、都市には美術館があり、子どもたちが日常的に関わりを有している。一層の充実が求められる。[小林]
- ・美術の時間に、本物の芸術作品を鑑賞することが大切なので、積極的に推進していったもらいたい。[佐倉]
- ・鑑賞教育の重要性は、新学習指導要領（文部科学省が定める教育のガイドラインのよう

なもの)の中においても扱われている事項である。美術館が、人間の存在を豊かにする生涯学習の拠点となり得ることを、もっと教育現場にいる者が深く学習すべきであることを感じる。美術館と教育現場の温度差をなくす為の相互の努力の必要を感じる。[杉戸]

- ・対小学校との連携はきわめて良好と思われる。[山梨]

c.中学生のための美術観賞教室の開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	中学生の時期に経験することはその後の人生に大きな影響を与える。心の豊かな人生を歩めるよう、今後も強化してほしい。

・学校との連携は美術への関心を高める他、親も含め、美術館へ興味を持ってもらえるため、是非強化して欲しい。[金子]

・美術館は心の癒しであり、心の福祉でもあるので、幼児・児童段階からの利用が求められる。イギリスでは美術館がない都市は都市と言わない程、都市には美術館があり、子どもたちが日常的に関わりを有している。一層の充実が求められる。[小林]

- ・継続して実施して欲しい。[佐倉]

・作品の鑑賞方法の様々な糸口を提示してくれている。(中学生という、思春期の彼等の興味・関心を引き出し、学びたいという意欲を起こさせるのは難しい。しかし、この時期における、経験や刺激は以後の彼等の人生に、何らかの影響を及ぼす。未来を負う彼等が豊かな人生を歩めるよう、より良いサポートを展開して欲しい。)[杉戸]

d.研修生等の受け入れ

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	きめ細かな対応が必要で、職員の負担になるだろうが、社会教育施設の大切さを学ばせる貴重な機会である。社会的貢献を果たす意味でも、継続してほしい。

・多忙な業務の中、研修生受け入れは負担となるだろうが、貴重な体験を提供できる立場として職員に頑張って欲しい。[金子]

・学芸員には苦労が伴うが、学芸員養成課程に美術館等の実習が組まれている。しかし、大学側は受け入れ先確保に苦労しているようである。公立美術館は社会的貢献を果たす意味でも、研修生の受け入れを継続することが望まれる。[小林]

- ・これからも、積極的に推進して欲しい。[佐倉]

・学習活動へのサポートとして、大切な取り組み。学生達には、社会教育施設の意義や大切さについても学習する機会を与えてほしい。(それが将来美術館にとっても有意義なものとなると思う。)[杉戸]

⑦市民との協働

a. サポートボランティアの活動状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	市民参加の機会として重要なプログラム。ボランティア数を増やしていく努力が望まれる。 評価基準がわかりにくく、再考を要する。

- ・ボランティア数の確保はどうか（いつも決まった人では活動に限界がある）[金子]
- ・市民との連帯を図る意味でも必要なプログラムである。[小林]
- ・サポートボランティアを増やしていく方策を考えてほしい。[佐倉]
- ・サポーターと職員の協働による円滑な企画、活動を期待したい。[佐倉]
- ・よく頑張ってくれていると評価したい。[杉戸]
- ・評価判定の基準が欲しい。[山梨]

b. プロジェクトボランティアの活動状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	市民参加の機会として重要なプログラム。ボランティア数を増やしていく努力が望まれる。 評価基準がわかりにくく、再考を要する。

- ・ボランティア数の確保はどうか（いつも決まった人では活動に限界がある）[金子]
- ・市民との連帯、新しい美術館像の模索にとって必要である。[小林]
- ・プロジェクトボランティアとサポートボランティアの区分がよくわからない。[佐倉]
- ・市民協働からいえば両ボランティア構成員の増強を図ることが大切ではないか。[佐倉]
- ・よく頑張ってくれていると評価したい。[杉戸]
- ・20年度はボランティアとして企画参加。21年度は補助として当日参加。・21年度のイベントを経験してそれなりの実績を感じた。[水島]
- ・しかしこのままでは変りばえなくマンネリ的というか？ひろがりを感じないように思う。ボランティアの満足だけのイベントになりはしないか？ボランティアが外に広がっていくにはもっと自由な展開を期待。[水島]
- ・評価判定の基準が欲しい。[山梨]

⑧子どもたちへの美術館教育

a.子ども向けワークショップの開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
A	A	子どもの感性を育てる大切な取り組みとして高く評価できる。主催者と参加者が相互に刺激し、学び合える場として充実させてほしい。

- ・人気のある企画であり、充実を望む。[金子]
- ・「学校との連携」で既述した趣旨どおり、子どもの感性を育てる大切な取り組みである。[小林]
- ・素晴らしいと思う、これからも積極的に推進してほしい。[佐倉]
- ・子どもの可能性は無限、発想も柔軟。美術館が彼等にとって学びの場となることを実感できる良い企画。今後とも場を共有し、相互に刺激し、学び合うワークショップの充実をはかることは大切。[杉戸]
- ・⑧-a.b.は⑧とし、なおかつ教育普及分野で取りまとめ、その一項目として評価したらどうだろうか。[山梨]

b.アーティストと出会う会の開催

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
A	A	子どもたちにとって、学びのきっかけとなる出会いの場を提供している。今後も継続してほしい。参加者の反応を聴取する仕組みをつくるべきである。

- ・生徒たちが、アーティストと直接ふれあう機会はとても大切であり、継続を希望する。[金子]
- ・「学校との連携」で既述した趣旨どおり、子どもの感性を育てる大切な取り組みである。[小林]
- ・著名アーティストや新進気鋭の若手アーティスト等いろいろな出会いのチャンスを与えてほしい。[佐倉]
- ・子どもたちにとっては出会いこそがまさに学びの場のはじまりになる。有意義な出会いの場を設定している。[杉戸]
- ・参加者の反応・感想は集約し、今後に生かすべきだと考える。又、それを踏まえた上での評価であってほしい。[杉戸]

⑨すぐれた美術品の収集・保管

a. 作品収集の状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	購入のための予算を欠いているのは、美術館にとって決定的にマイナスである。少額でも購入費の復活が望まれる。

- ・購入予算がない厳しい状況であるが、今後も収集を努力して欲しい。[金子]
- ・一次評価 C とあるが、その評価基準がわからない。予算が計上されていないのに、寄贈等を受けたことは逆に作品収集の状況評価は A と判断できるが。また、予算無しが評価 C になったとも読み取れる。[小林]
- ・財政難の中、積極的に努力されていることは、指標を満足しているか否かにかかわらず評価したい。[佐倉]
- ・予算確保が困難な状況だと思うがこれからはがんばってほしい。[佐倉]
- ・困難であると思うが、更なる充実を求めたい。[杉戸]
- ・購入（予算）を欠いているのは、美術館収集活動として決定的なマイナスであり、形だけでも購入費の復活が望まれる。[山梨]

b. 保存・修復の状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	専門的な知識が必要で、判断しにくい。わかりやすい説明と客観的な判断基準が必要である。

- ・海のそばという環境のため、今後も作品の保存状況にはじゅうぶん留意されたい。[金子]
- ・作品を保全していくことは、美術館の大切な役割だと思うので、地味な仕事ではあるががんばってほしい。[佐倉]
- ・指標を明らかに。[山梨]

c. 所蔵作品の貸出状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
A	A	前年度並みにじゅうぶん実績を挙げている。所蔵作品を貸し出すことは、横須賀美術館をより多くの人に知ってもらう機会であり、継続的な対応が望まれる。

- ・103 件の貸出状況が、多いのかは不明。[金子]

- ・過去の所蔵作品が評価されていることで喜ばしいことである。[小林]
- ・所蔵作品の積極的貸出を図ることは、横須賀美術館を多くの人に知ってもらう機会だと思う。これからも推進してほしい。[佐倉]
- ・様々な美術館との連携は、じゅうぶんな評価に値する。
- ・指標を明らかに。[山梨]

⑩経営的な視点をもった効率的な運営・管理

a.開館日

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	展示替え期間中に起こる諸問題を解消して来館者へのサービスを向上させ、あわせてコストの削減をはかるために、現在の開館日数を削減する方向で再考すべきである。

- ・開館日数はじゅうぶんと思われる。[金子]
- ・展示替えは同一日に実施し、企画と所蔵の両方を見れる方が満足度が高まるのではないか。[金子]
- ・休館日も屋上を開放するなど、来館した方が何らか楽しめるようにしてはどうか。[金子]
- ・質の向上を求める開館日の改善は必要であり、臨時休館の周知徹底に努める [菊池]
- ・検討の余地あり。一次評価者より意見を伺う。[小林]
- ・週に一日は休館日があってもいいと思う。[佐倉]
- ・毎月**日は、“美術館の日”といった美術館のイメージアップするようメリハリをつけてみてはどうでしょうか。[佐倉]
- ・改善の余地がじゅうぶんあると判断した「C」である。[杉戸]
- ・経費を考えれば週一回の休日はあっても良い。[水島]
- ・企画展、所蔵展どちらか一方のときは本当に損した気分になる。[水島]
- ・年間 347 日の開館日数には大きな努力が認められる。[山梨]

b.開館時間

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
C	C	現在の開館時間の設定には効率の面からみて改善の余地があると考えられる。開館時間を延長する日をより限定し、夜間のイベントと組み合わせるなど、メリハリをつけて実施したほうがよい。

- ・夕方以降の観覧者動員は場所柄、苦勞すると思うが、特定曜日のみ開館を延長するなど、観覧機会を減らさずコストダウンに努めていただきたい。[金子]
- ・開館時間の見直しは必要。実情に即した開館時間に設定することを検討（ナイトイベント開催等による時間延長に切り替え） [菊池]
- ・検討の余地あり。一次評価者より意見を伺う。[小林]
- ・サマータイムの土曜は、夜8時まで延長してみたらどうですか。[佐倉]
- ・改善の余地がじゅうぶんあると判断した「C」である。[杉戸]

- ・開館時間がむやみに長いのもどうか？と思う。[水島]
- ・ゴールデンウィークや夏休みでも、10時～18時でも良いと思う。夏季、金、土、日だけが20時というのはどうか？[水島]
- ・冬場は17時でじゅうぶんではないか？経費がもったいないのでは？[水島]
- ・将来の課題として記されている事項の検討が期待される。[山梨]

c.財務状況

一次評価	二次評価	評価委員会コメント
B	B	質を落とさない経費削減、運営の効率化を日常的に目指すべき。単なる収支の比率ではない運営上の指標を設定する必要がある。

- ・収入は予算に対して減少しているものの、支出も減少しているため、評価はBとしたが、その大部分を市民が支えていることを忘れてはいけない。[金子]
- ・美術館としての理想的損益基準というものがあれば、示されたい[菊池]
- ・質を落とさない経費削減、運営の効率化は、常に全員が心がける命題[菊池]
- ・評価根拠について検討の余地あり。[小林]
- ・一般財源負担額の軽減が図れるようにしないと指定管理者制度を導入しろという圧力が高まると思うので支出減と収入増を図る工夫が必要。[佐倉]
- ・入館者を増やして入館料の増加を図る努力は必要だが、その他の収入の増加が不可欠。(限定グッズの作成・販売等の工夫)[佐倉]
- ・観光課との連携でイベント企画など収入を上げる手だてはあるように思う。(マスコミ、テレビでは、横須賀の観光スポットとしてよく見かける。)[水島]
- ・展覧会事業費の約63%を観覧料、図録販売等の収入でまかなっていることは、全国でも例が少ないと思われる。財務状況としては良好として特筆される。[山梨]

平成 21 年度 横須賀美術館評価委員会 評価報告書

平成 23 年 1 月

横須賀美術館評価委員会

横須賀市教育委員会美術館運営課

〒239-0813

神奈川県横須賀市鴨居 4-1

TEL 045-846-1211